

# Oracle Direct Seminar



**ORACLE®**

## 意外と簡単!? Oracle Database 11g データベース構築編

日本オラクル株式会社

**Oracle** Direct



# Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
- データベースの作成
- Enterprise Managerの利用
- まとめ

## 無償技術サービスOracle Direct Concierge

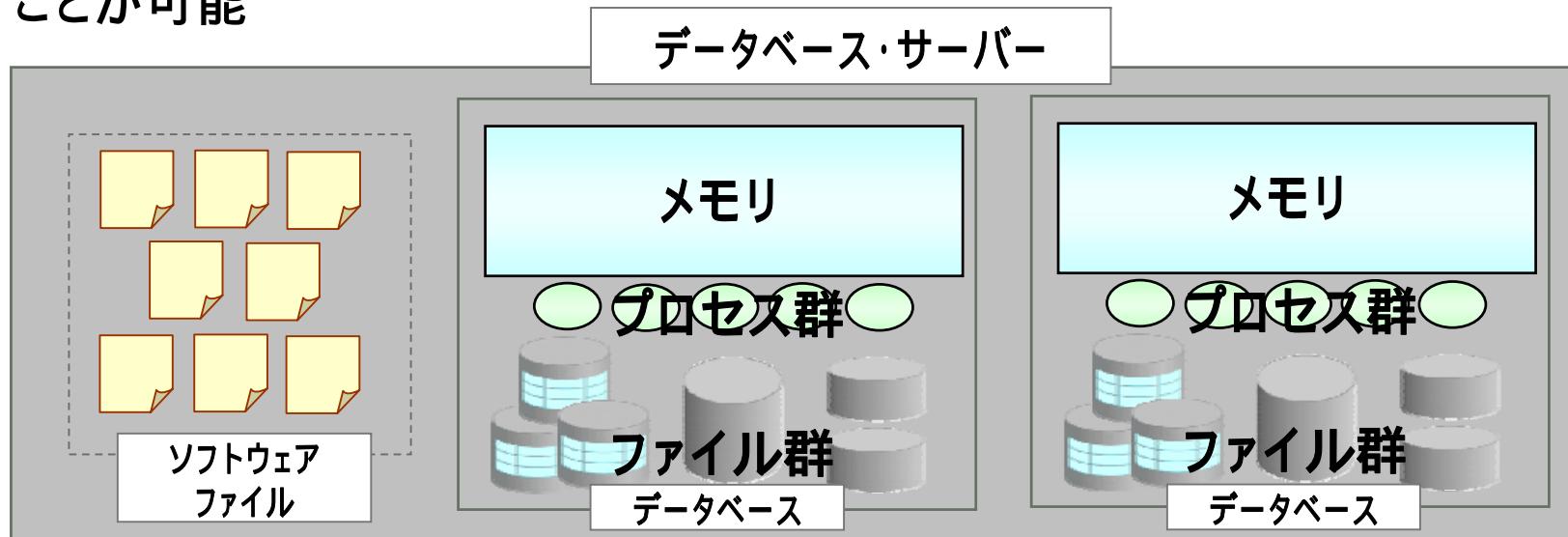
- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断
  - メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# Oracle Databaseの構成

- ・データベースのインストール
  - Oracle Databaseソフトウェアのインストール
- ・データベースの作成
  - 「インスタンス + データベース」のセットの作成
  - インストール済みのサーバーに、複数のデータベースを作成することが可能



# 本セミナーにおけるソフトウェア構成

- オペレーティングシステム: Microsoft Windows 2003 + Service Pack1
- RDBMS: Oracle Database 11g Release 1 Enterprise Edition for Windows

構成要件(OSなど)によっては本セミナーと異なる要件や手順でインストールをする場合があります

ORACLE®

# Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
  - システム要件の確認
  - ドキュメントの用意
  - Oracleソフトウェアのインストール
- データベースの作成
- Enterprise Managerの利用
- まとめ

## 無償技術サービスOracle Direct Concierge

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断
  - メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# Oracle Databaseには以下のシステム要件があります

- メモリー要件: Database Controlを使用するインスタンス用に1GB
- ディスク要件
  - 1.5GBのスワップ領域
  - /tmpディレクトリ内に400MBのディスク領域
  - Oracleソフトウェア用に1.2GB(オプション)
  - フラッシュユリカバリ領域用に2.4GB(オプション)
- オペレーティングシステム
- 最新の情報は以下URLよりご確認ください  
<http://www.oracle.com/technology/support/metalink/index.html>  
(要:サポートアカウント)

ORACLE

# ドキュメントを用意します

- Oracle Database インストーラーション・ガイド 11g  
リリース1(11.1) for Microsoft Windows
- Oracle Database リリース・ノート 11g  
リリース 1(11.1) for Microsoft Windows
- Oracle Database プラットフォーム・ガイド 11g  
リリー 1(11.1) for Microsoft Windows

上記の資料は以下のURLにあります

[http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/  
products/oracle11g/111/index.html#win](http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/products/oracle11g/111/index.html#win)

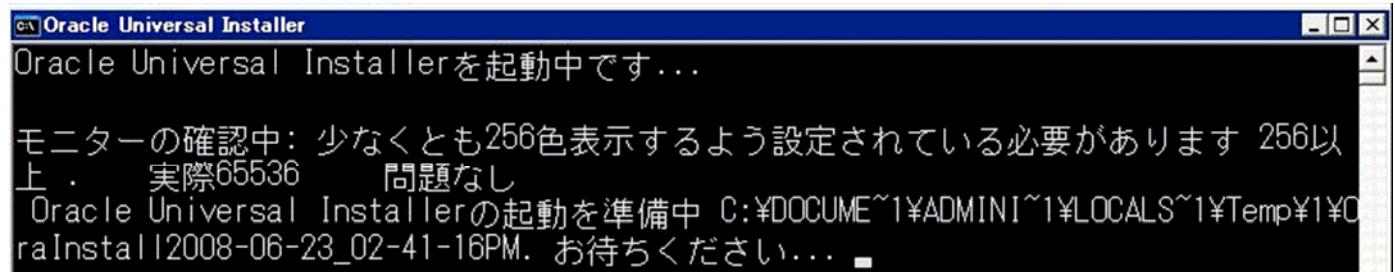
# Oracle ソフトウェアのインストール

1. 管理者権限を持つユーザーでWindows OSにログイン
2. Oracle Universal Installerを起動

製品メディアDVDをセットもしくはダウンロードしたソフトウェアを展開し、  
databaseフォルダ以下のsetup.exeをダブルクリックします

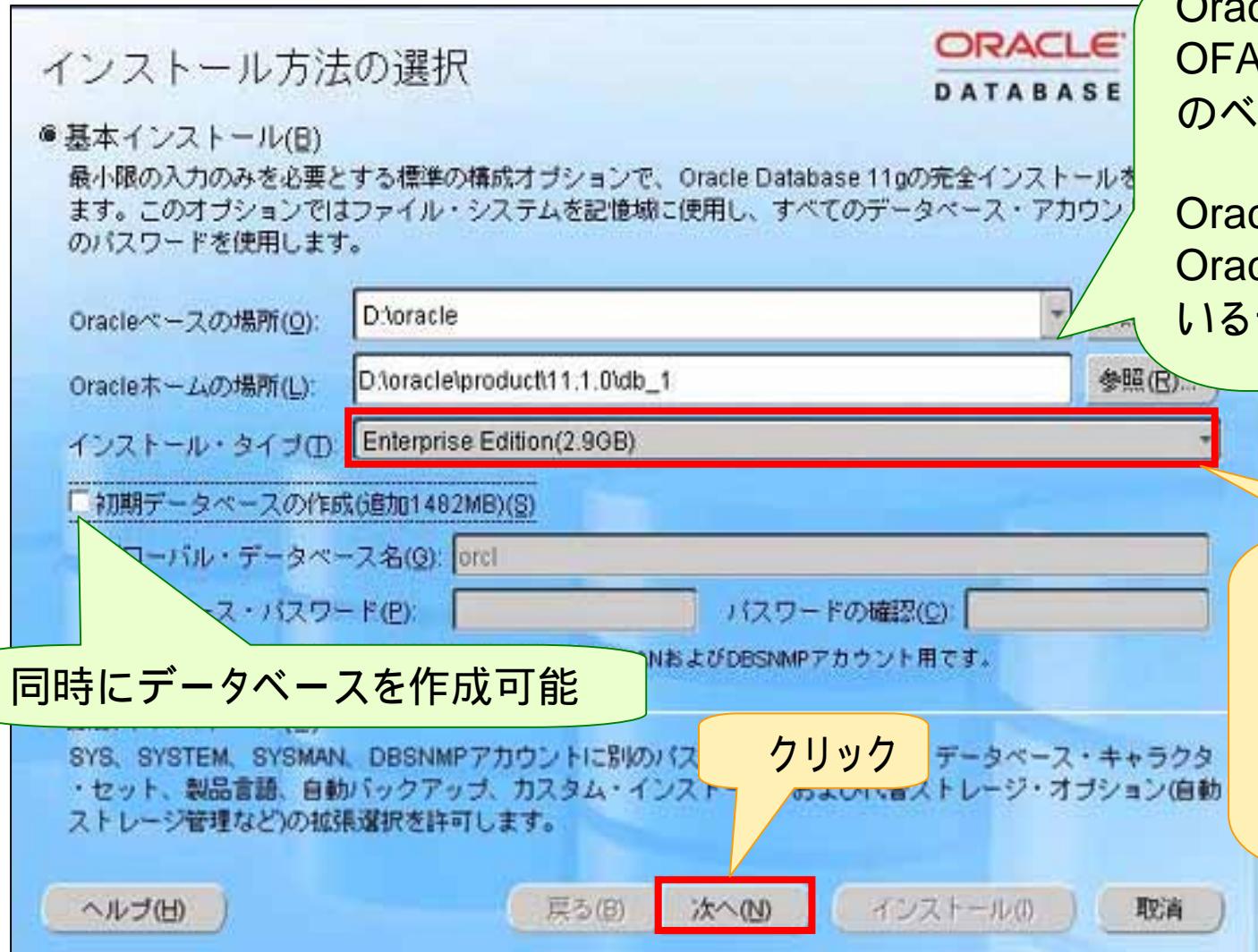
## Oracle Universal Installer (OUI)

Oracleソフトウェアやオプションをインストール/削除などを行うためのGUIツール



ORACLE

# インストール方法を選択します



Oracleベース:  
OFA用のOracleディレクトリ構造  
のベース

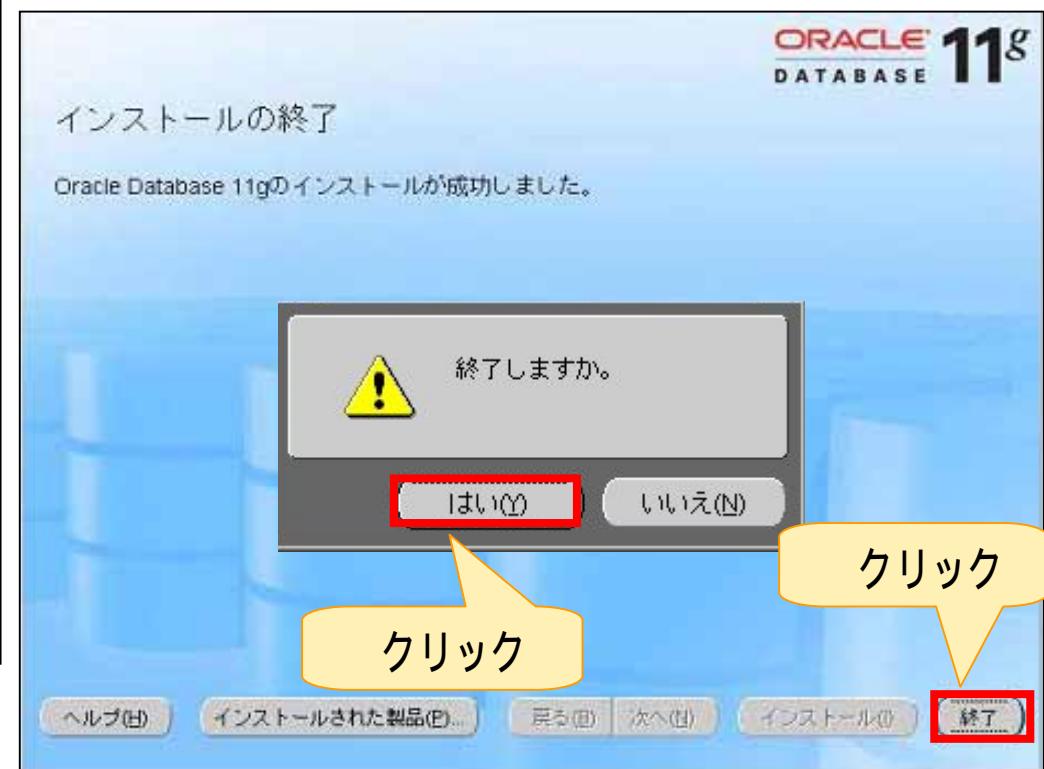
Oracleホーム:  
Oracleソフトウェアが格納されて  
いるディレクトリ

- インストールタイプ選択
- Enterprise Edition
  - Standard Edition
  - Personal Edition
  - カスタム

# インストール要件のチェック及び構成の確認をします



# インストールを実行します



ORACLE

# Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
- データベースの作成
  - データベースを作成する方法
  - 事前準備リスナーの構成
  - Oracle Databaseのネットワーク設定
  - DBCAによるデータベースの作成
- Enterprise Managerの利用
- まとめ

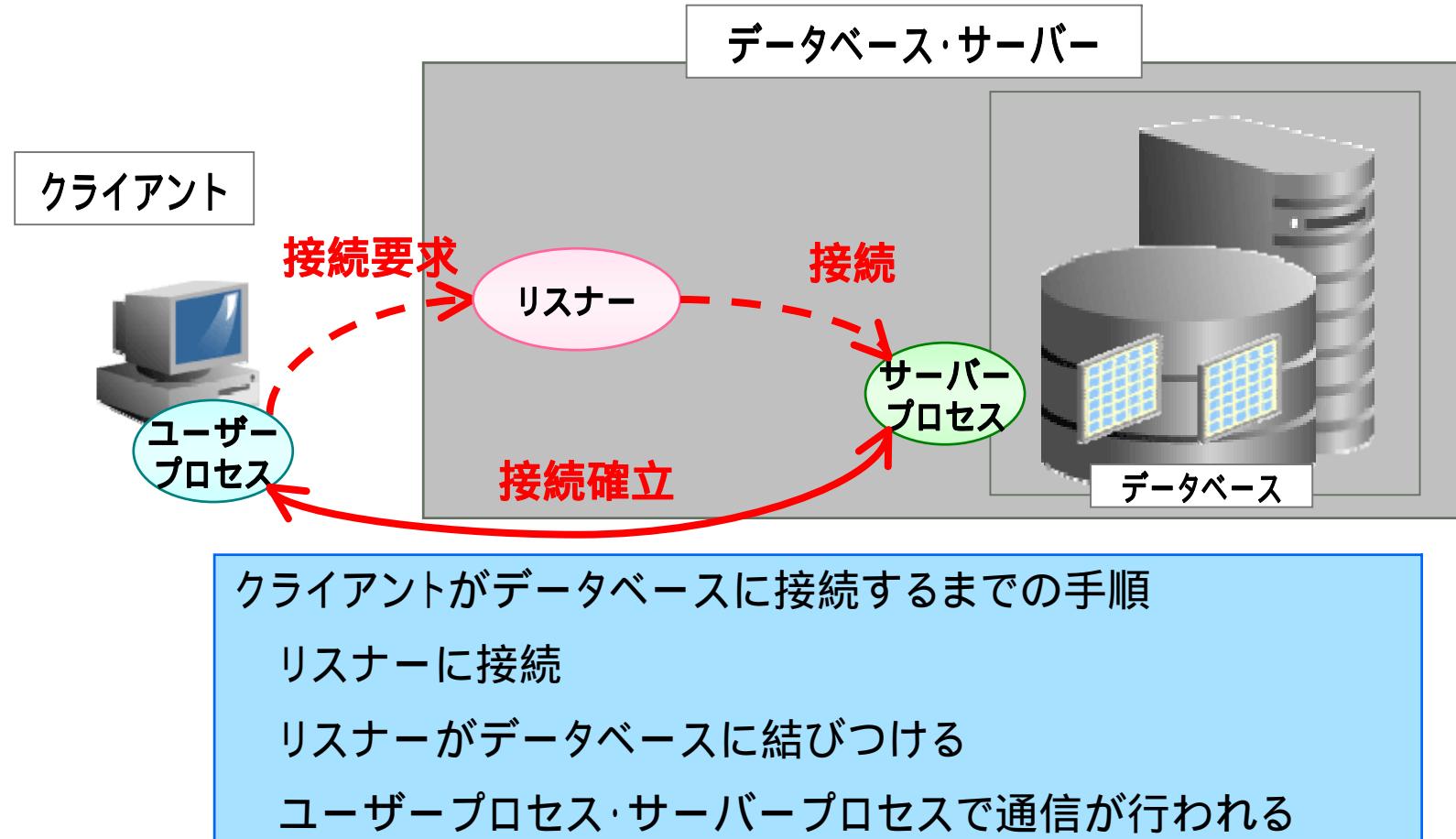
## 無償技術サービス Oracle Direct Concierge

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断
  - メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# データベースのアクセスの流れ



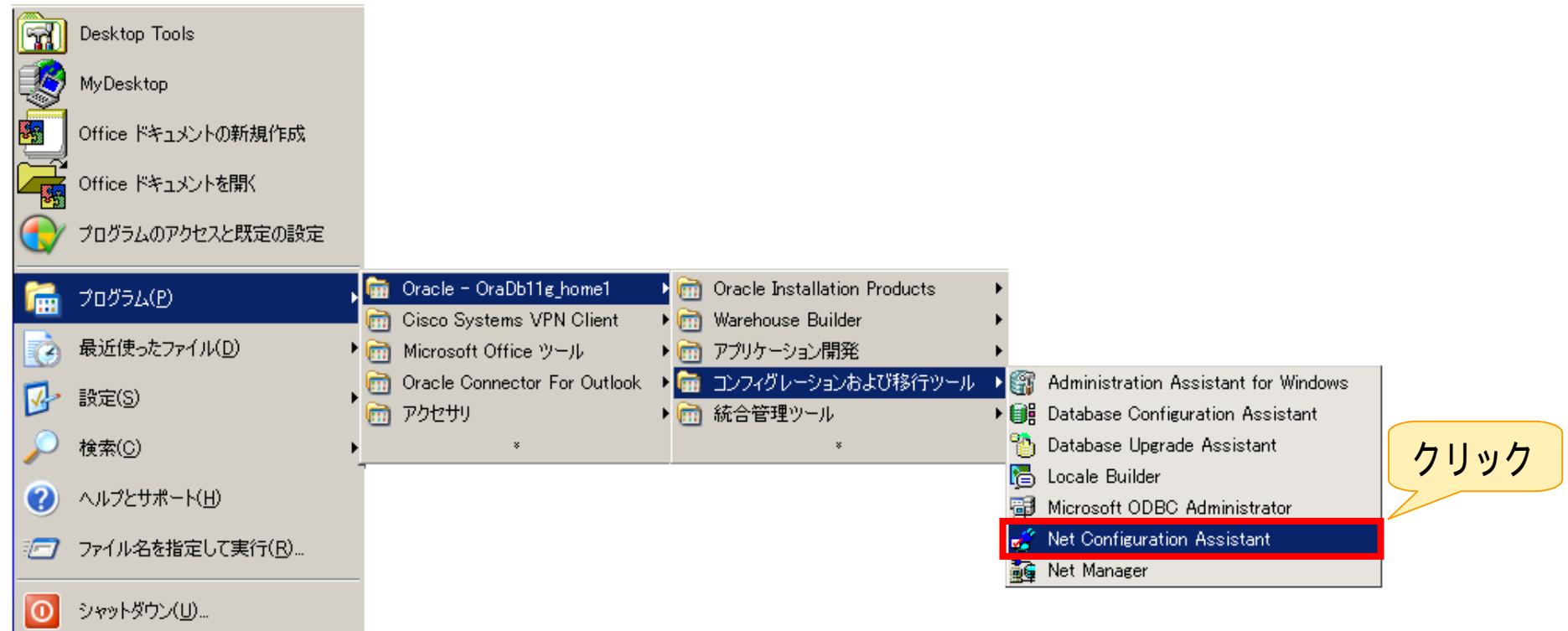
リスナーはDBCAを使用してEnterprise Managerを構成する前に構成しておく必要があります  
DBCA: データベースをGUIで作成するツール

ORACLE

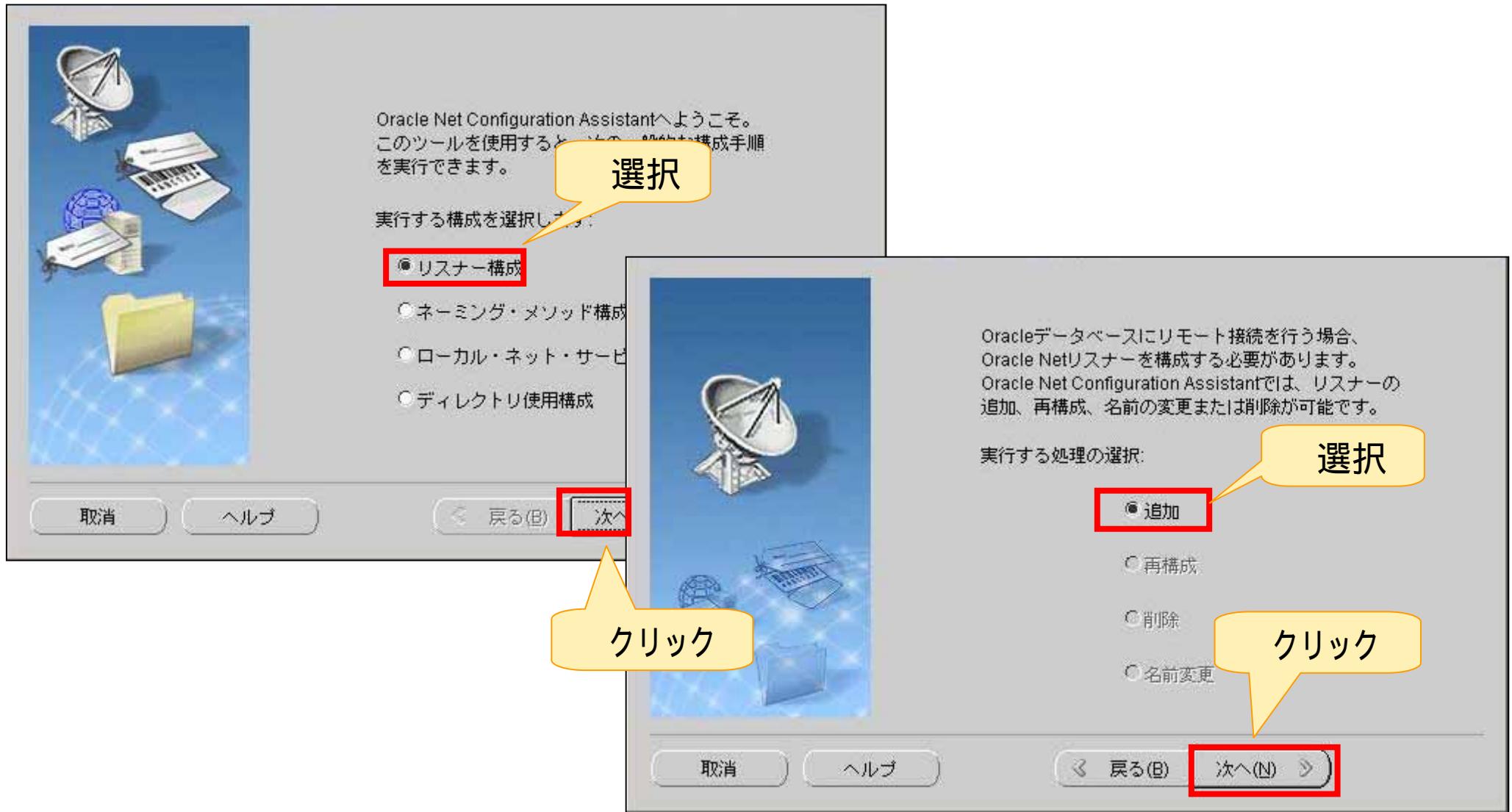
# Net Configuration Assistantを起動します

**Net Configuration Assistant (Net CA) : GUIによるネットワーク構成ツール**

プログラム Oracle コンフィギュレーション及び移行ツール Net Configuration Assistant



# リスナー構成を選択し、追加の処理を選びます

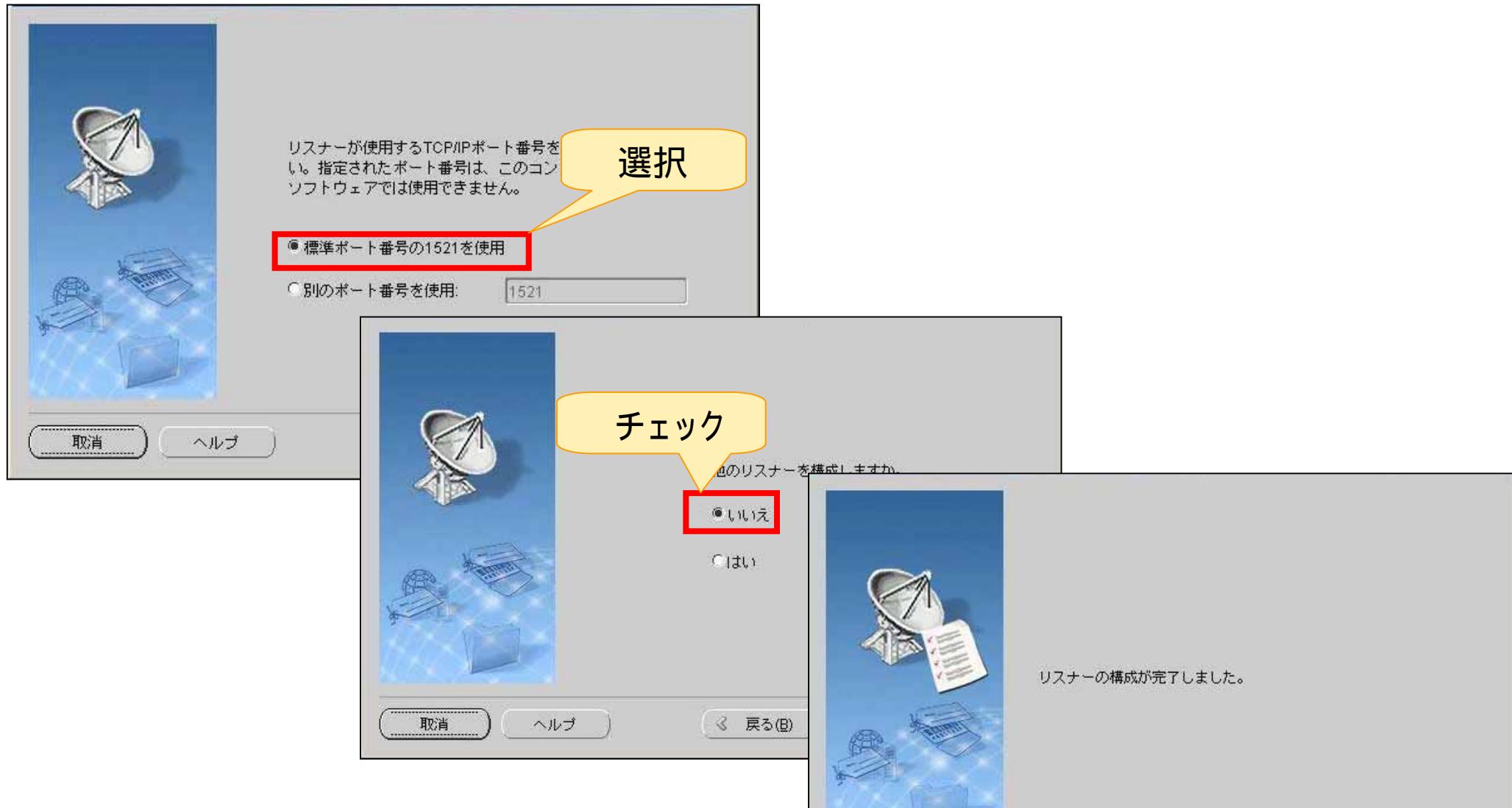


ORACLE

# リスナー名を入力し、プロトコルを選択します



# リスナーが使用するポート番号を決めます



ORACLE

# リスナーが起動状況を確認します

```
C:\Documents and Settings>lsnrctl status
LSNRCTL for 32-bit Windows: Version 11.1.0.7.0 - Product
3:06
Copyright (c) 1991, 2008, Oracle. All rights reserved.

(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp)(HOST=)(PORT=1521))に接続中
リスナーのステータス
-----
別名          LISTENER
バージョン      TNSLSNR for 32-bit Windows: Version 11.1.0.7.0 - Produ
ction
開始日        10-3月 -2009 17:02:21
稼働時間      0 日 0 時間 10 分 44 秒
トレース・レベル    off
セキュリティ    ON: Local OS Authentication
SNMP           OFF
パラメータ・ファイル  D:\ora\product\11.1.0\db_1\network\admin\listener
.ora
ログ・ファイル    d:\ora\diag\tnslsnr\oracle-jp\listener\alert\log
.xml
リスニング・エンドポイントのサマリー...
  (DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp)(HOST=oracle-jp.jp.oracle.com)(PORT=1521))
))
サービスのサマリー...
  サービス“oracle”には、1件のインスタンスがあります。
    インスタンス“oracle”、状態READYには、このサービスに対する1件のハンドラがあり
ます...
  サービス“oracleXDB”には、1件のインスタンスがあります。
    インスタンス“oracle”、状態READYには、このサービスに対する1件のハンドラがあり
ます...
  サービス“oracle_XPT”には、1件のインスタンスがあります。
    インスタンス“oracle”、状態READYには、このサービスに対する1件のハンドラがあり
ます...
コマンドは正常に終了しました。
```

C:\Documents and Settings>lsnrctl status

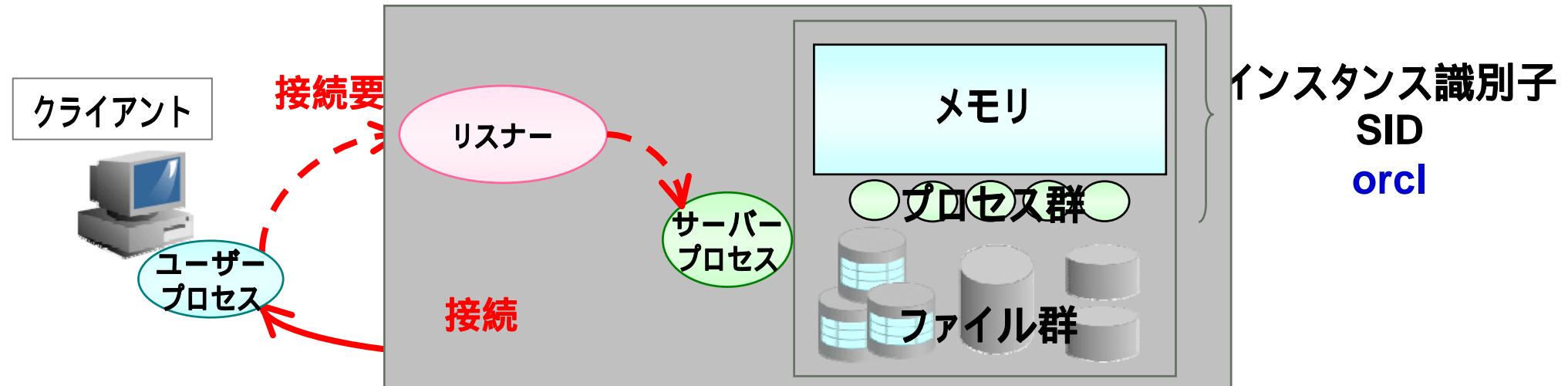
リスナーステータス確認コマンド

lsnrctl status

リスナー起動コマンド

lsnrctl start

# データベースの構成



- SID
  - SID(System IDentifier) インスタンス名
  - 同一サーバ内に複数DBを作成する際はマシン内で一意になるようにする
- グローバル・データベース名
  - 分散データベース環境でデータベースを識別するために使用
  - ネットワークで一意になるようにする
  - 通常はSID + ドメイン名にすることが多い

ORACLE

# データベースには2通りの作成方法があります

- データベースを作成する方法
  - SQL文を使用してコマンドにて作成する方法
  - DBCA (Database Configuration Assistant)というGUIツールを利用して作成する方法



本セミナーでは、DBCAを用いて  
データベースを作成します

## DBCA (Database Configuration Assistant)

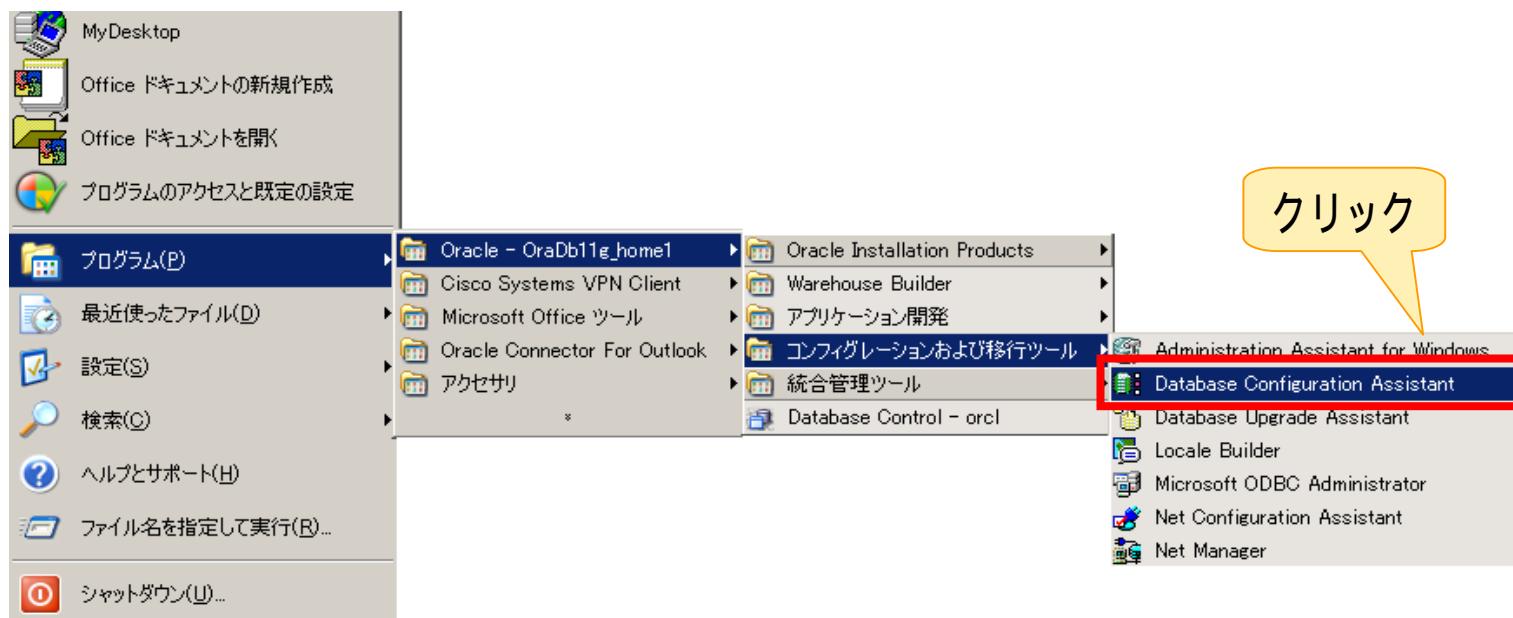
データベースの作成や削除、構成の変更、データベースのテンプレートを作成するためのツール

ORACLE®

# DBCAを起動します

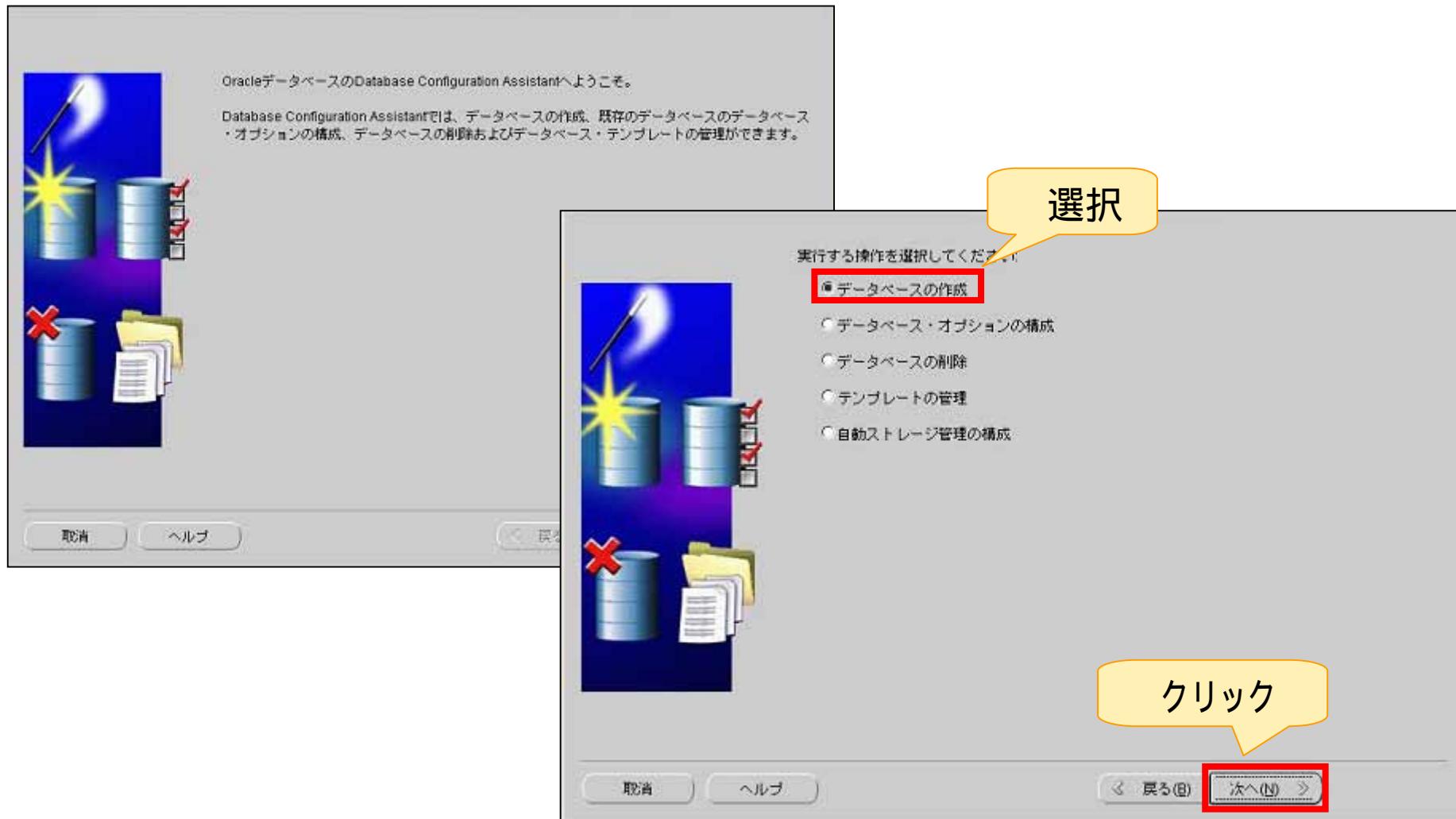
DBCAを起動

スタート プログラム Oracle コンフィグレーション  
Database Configuration Assistant



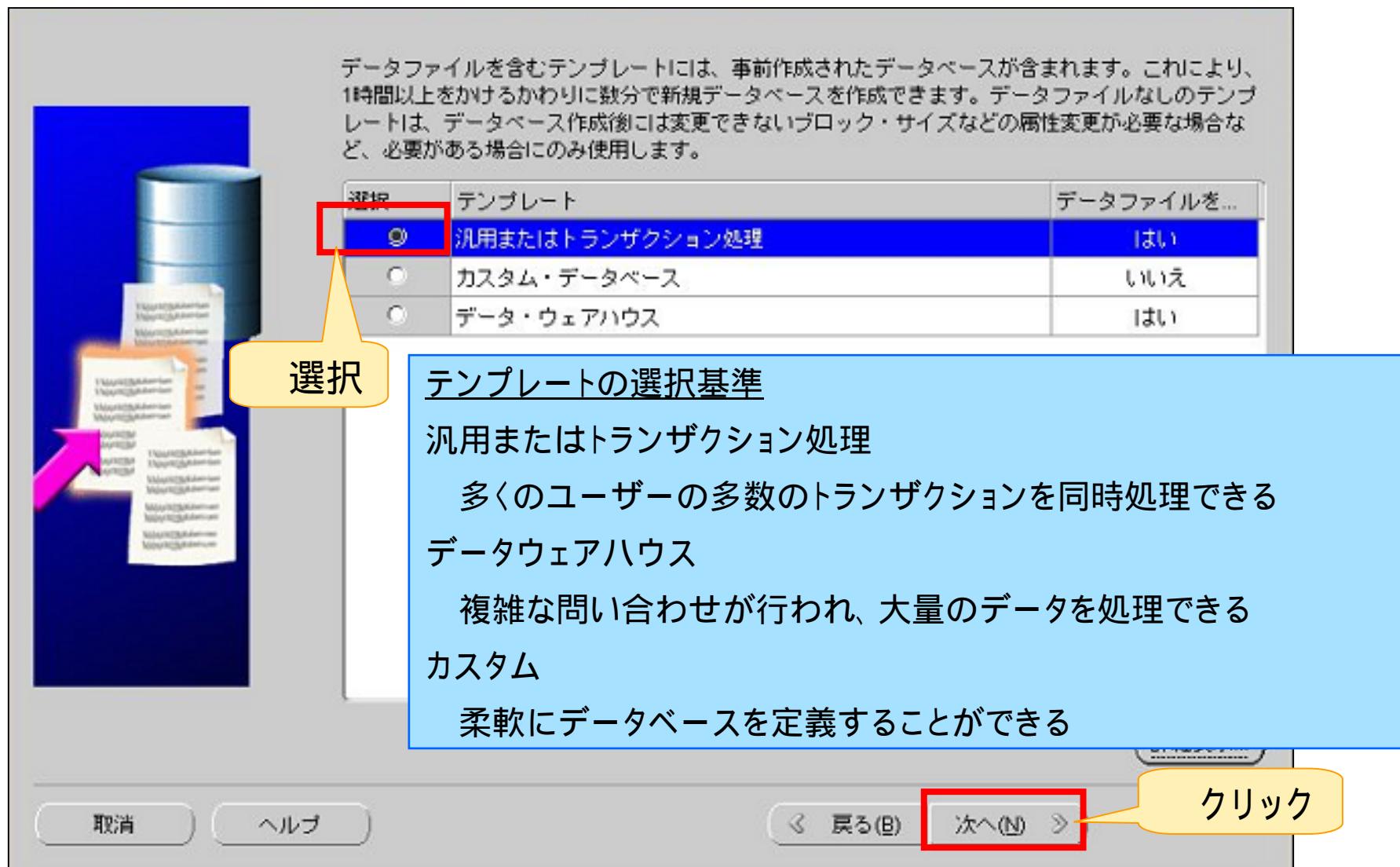
ORACLE

# データベースの作成を選択します



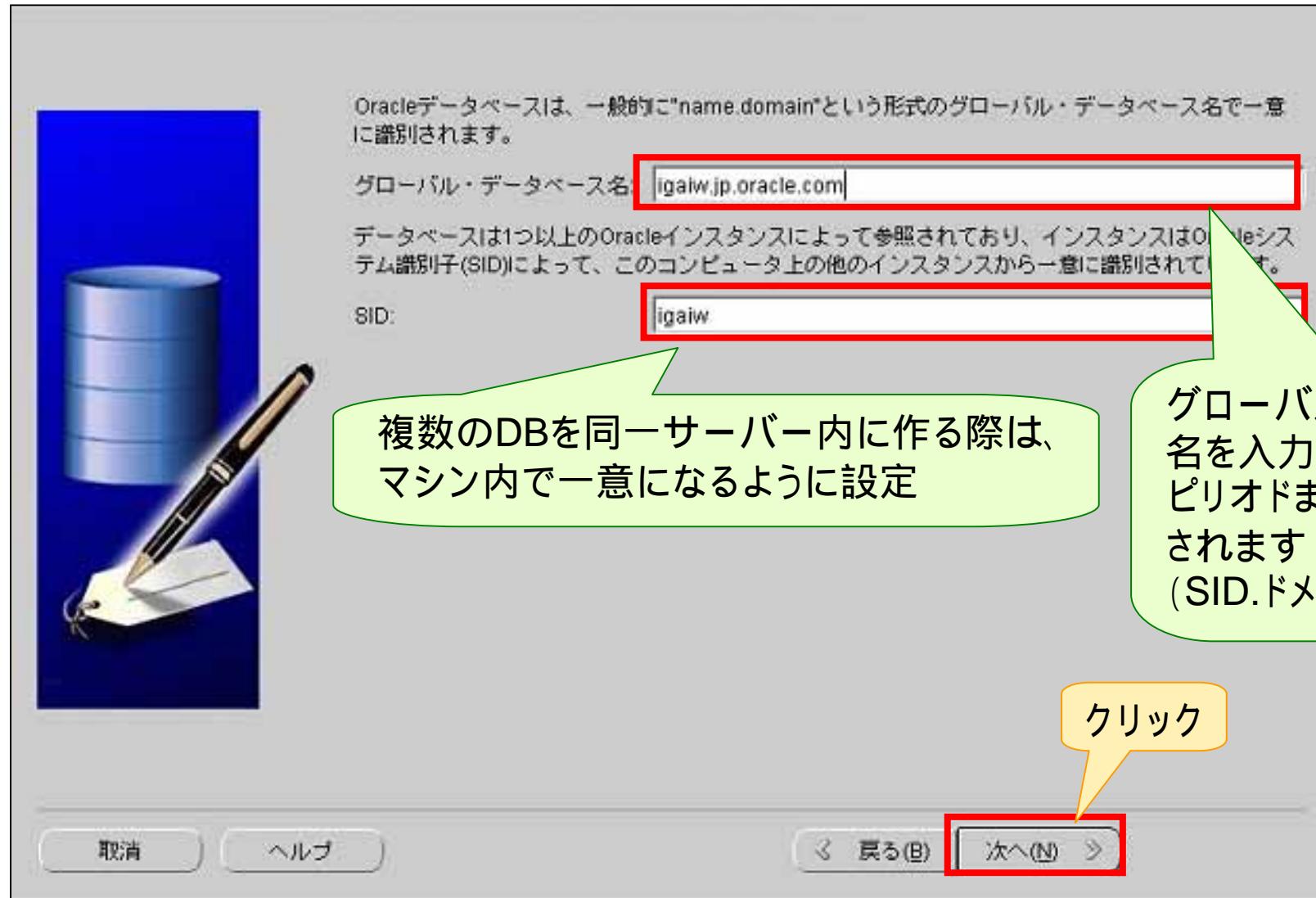
ORACLE

# データベースのテンプレートを選択します

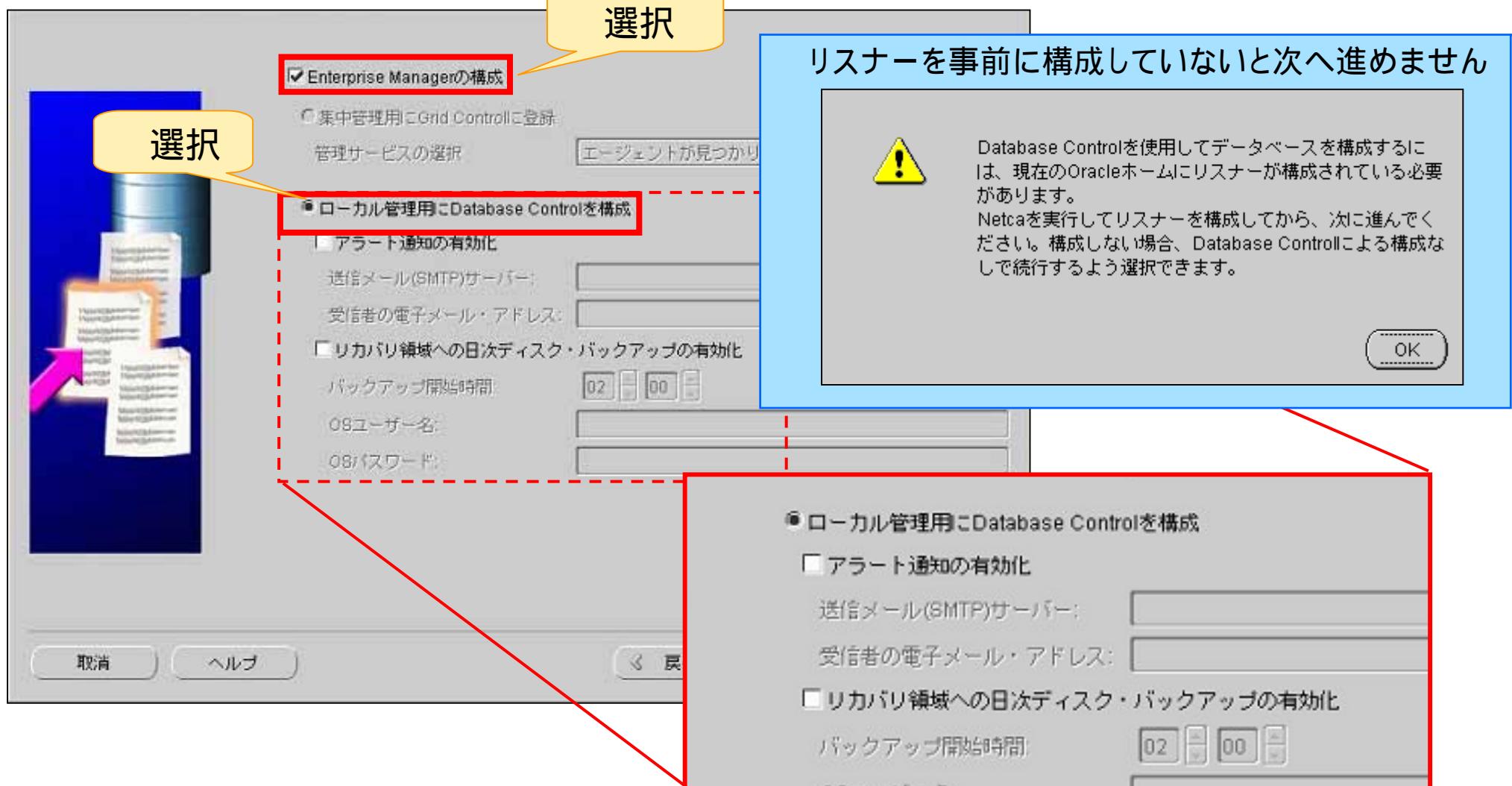


ORACLE

# データベース識別情報を入力します

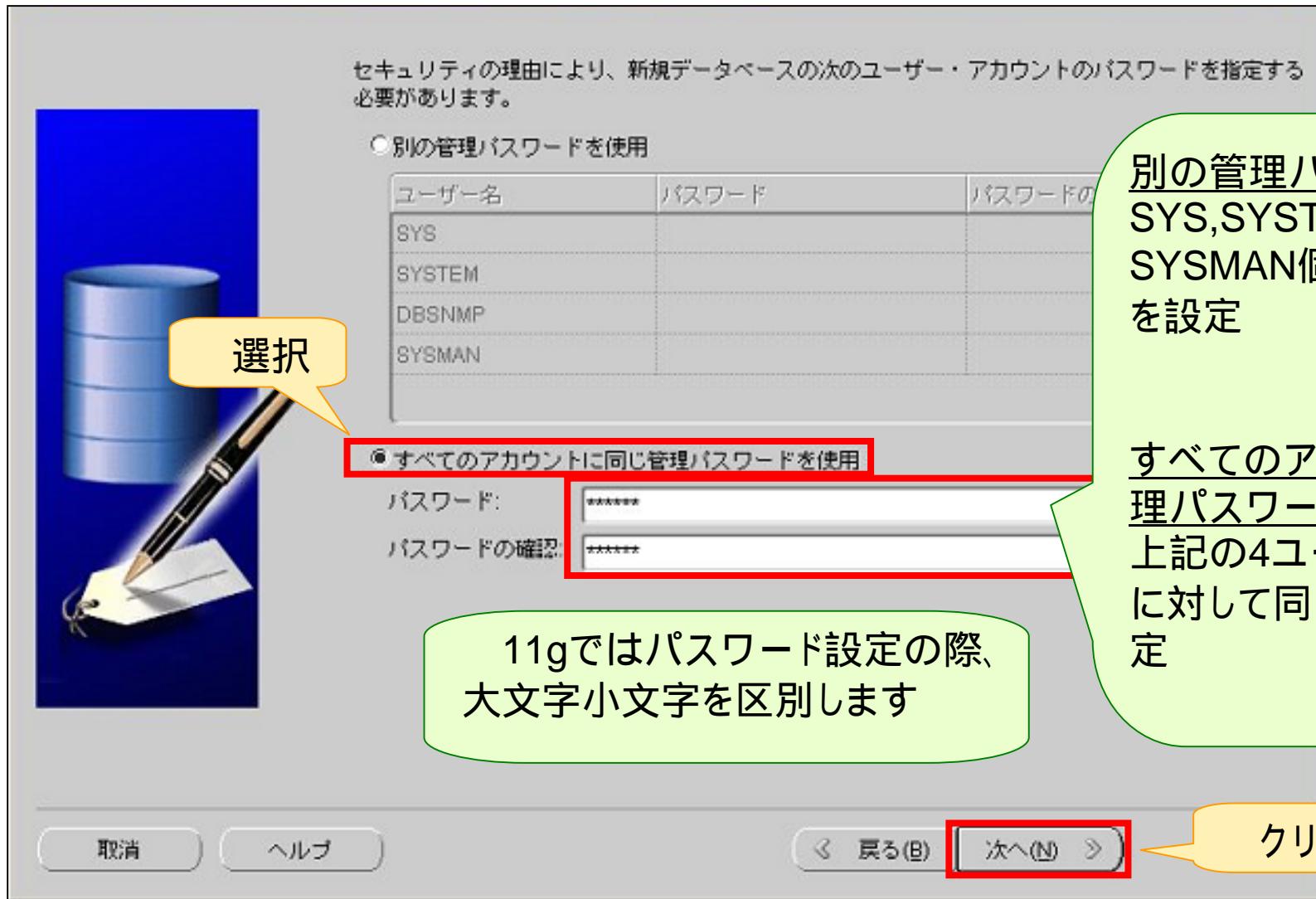


# 管理オプションを選択します



ORACLE

# データベース資格証明を決めます



別の管理パスワードを使用  
SYS,SYSTEM,DBSNMP,  
SYSMAN個別にパスワード  
を設定

すべてのアカウントに同じ管  
理パスワードを使用  
上記の4ユーザー・アカウント  
に対して同じパスワードを設  
定

# 記憶域オプションを選択します

選択

データベースに使用する記憶域メカニズムを選択してください。

ファイルシステム

データベース記憶域にファイルシステムを使用します。

自動ストレージ管理(ASM)

自動ストレージ管理により、データベース記憶域の管理が簡素化され、データベース・レイアウトが最適化されてI/Oパフォーマンスが向上します。このオプションを使用するには、ディスク・セットを指定してASMディスク・グループを作成するか、既存のASMディスク・グループを指定します。

RAWデバイス

自動ストレージ管理を使用しておらず、クラスタ・ファイルシステムが使用可能ではない場合は、Real Application Clusters (RAC)データベースに必要な共有記憶域を、RAWパーティションまたはボリュームで指定できます。データベースに作成予定のデータファイル、制御ファイルお

## 記憶域メカニズム選択

### ファイルシステム

データベースファイルが格納されるディレクトリパスを指定できます

### 自動ストレージ管理(ASM)

Oracle Databaseがデータベースファイルの配置とネーミングを自動的に管理します

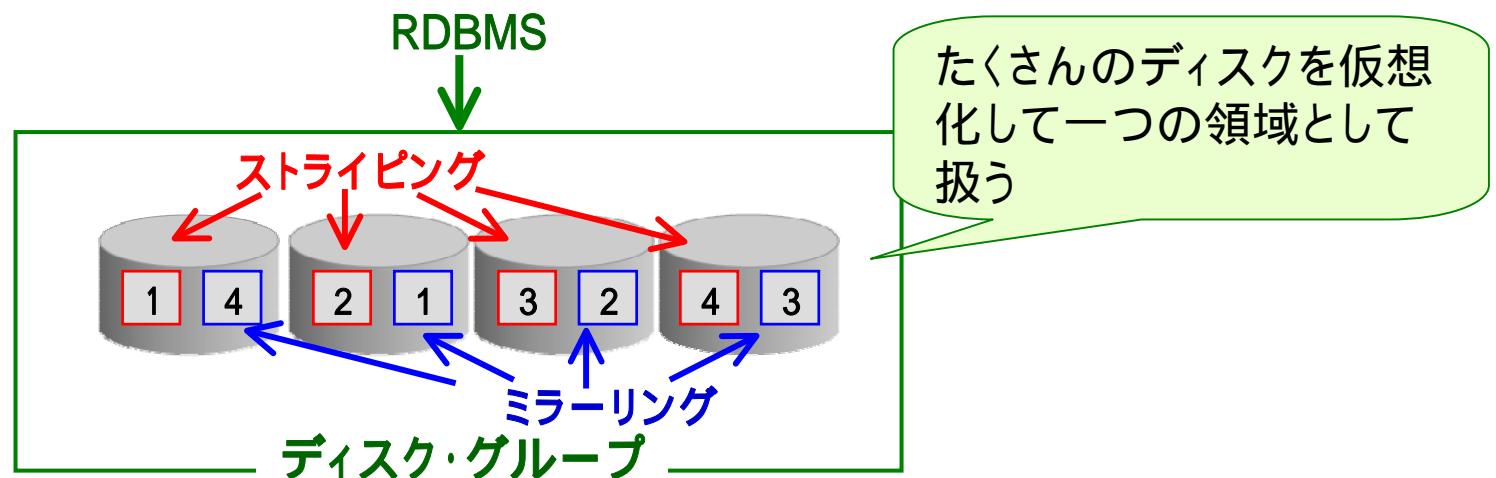
### RAWデバイス

Oracle DatabaseにRAWデバイスと呼ばれるフォーマットされていない物理ディスク領域を割り当てることで、OSのファイルシステムの外部にあるストレージデバイスを管理できます

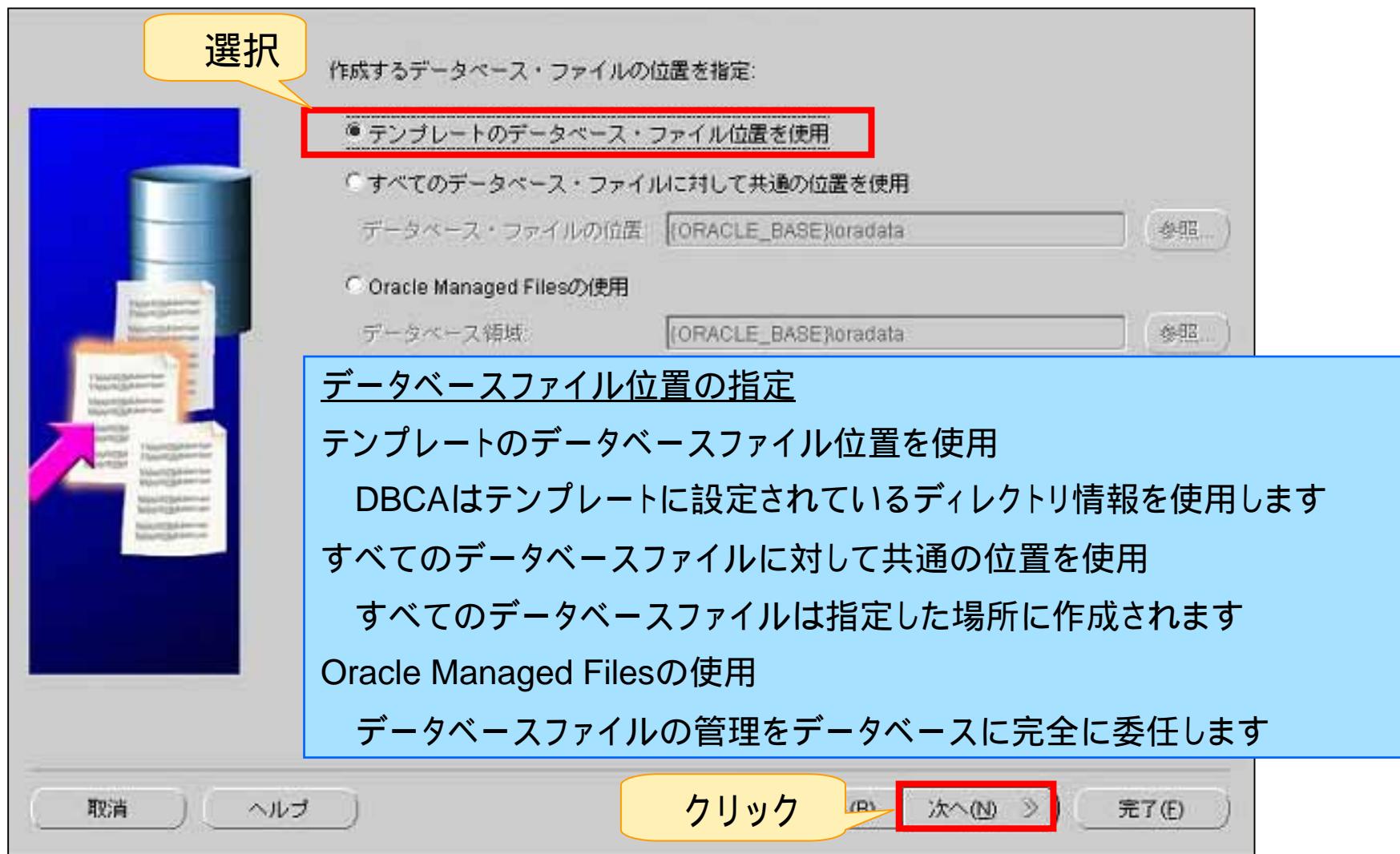
ORACLE

# Automatic Storage Management(ASM)

- 10gから導入された領域の自動管理機能
- ディスクの構成を仮想化
  - ディスクの物理的な配置やサイズを意識する必要がない
  - オンラインで、ディスクの追加や削除が可能
- ストライピング/ミラーリングが可能
  - ストライピング アクセスが分散され、特定のディスクにアクセスが集中しない
  - ミラーリング ひとつのディスクが障害にあっても処理の継続が可能（障害対策）  
(設定により「なし」or「2重」or「3重」のミラーリングが可能)



# データベースファイルの位置を指定します



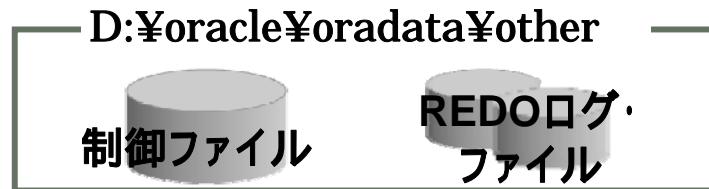
ORACLE

# データベース・ファイルの位置

- **Oracle Managed Files**

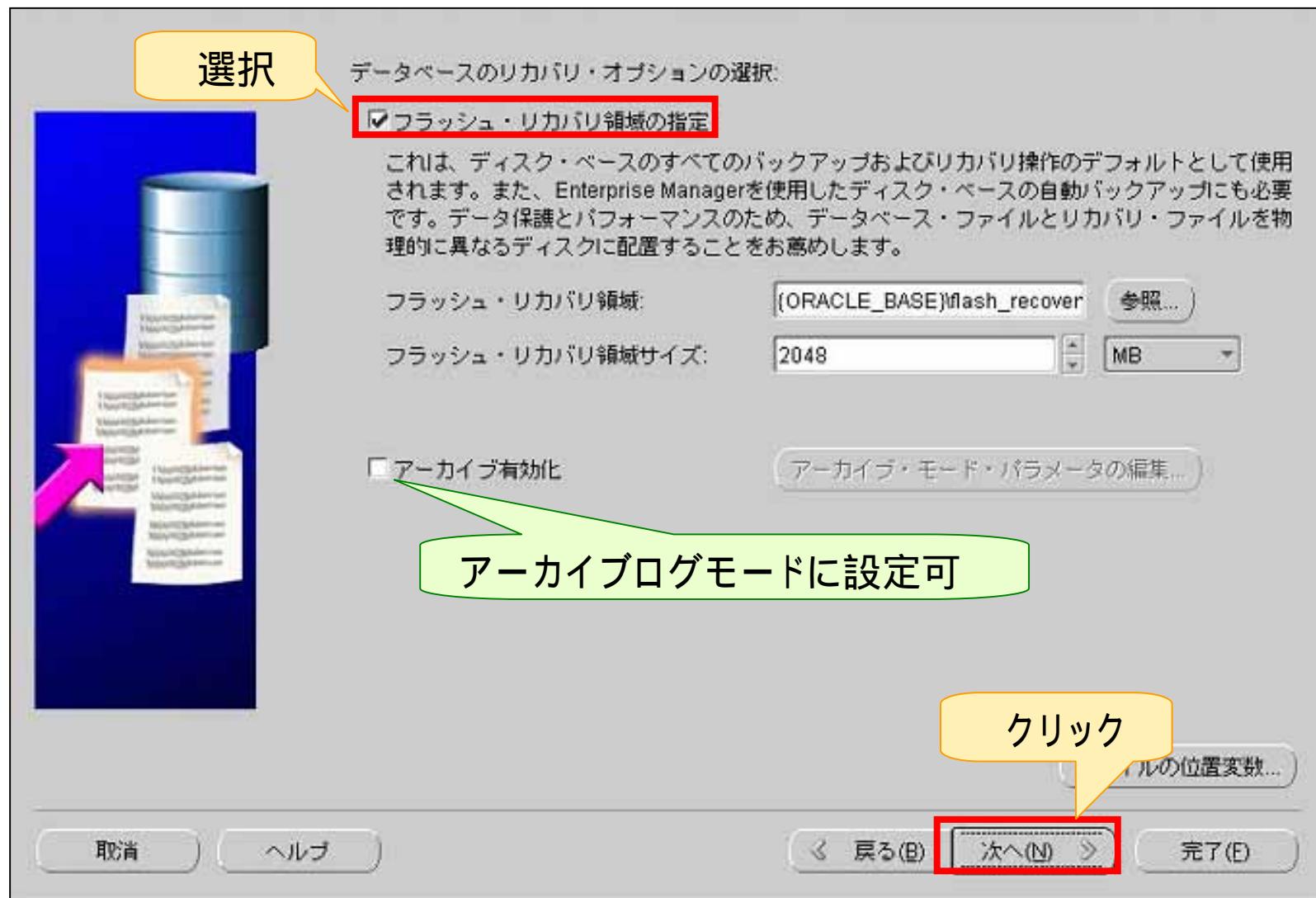
- 9iから導入された領域の管理機能
- パラメータで指定したフォルダにデータベース・ファイルを集中させ、ファイル名やサイズをOracleが自動管理する機能
  - 表領域の作成時に表領域名のみ指定すればよい
  - DROPした表領域に属するデータ・ファイルが自動削除される
- ディスク一本で収まる小規模システム、管理を楽にしたいパッケージソフトのバックエンドDB向け
- 領域の分散ができないため、ASMと併用し、ストレージ側で負荷分散を行うと効果的

```
DB_CREATE_FILE_DEST='D:\oracle\oradata\data'  
DB_CREATE_ONLINE_LOG_DEST_1= 'D:\oracle\oradata\other'
```



ORACLE

# リカバリ構成を設定します



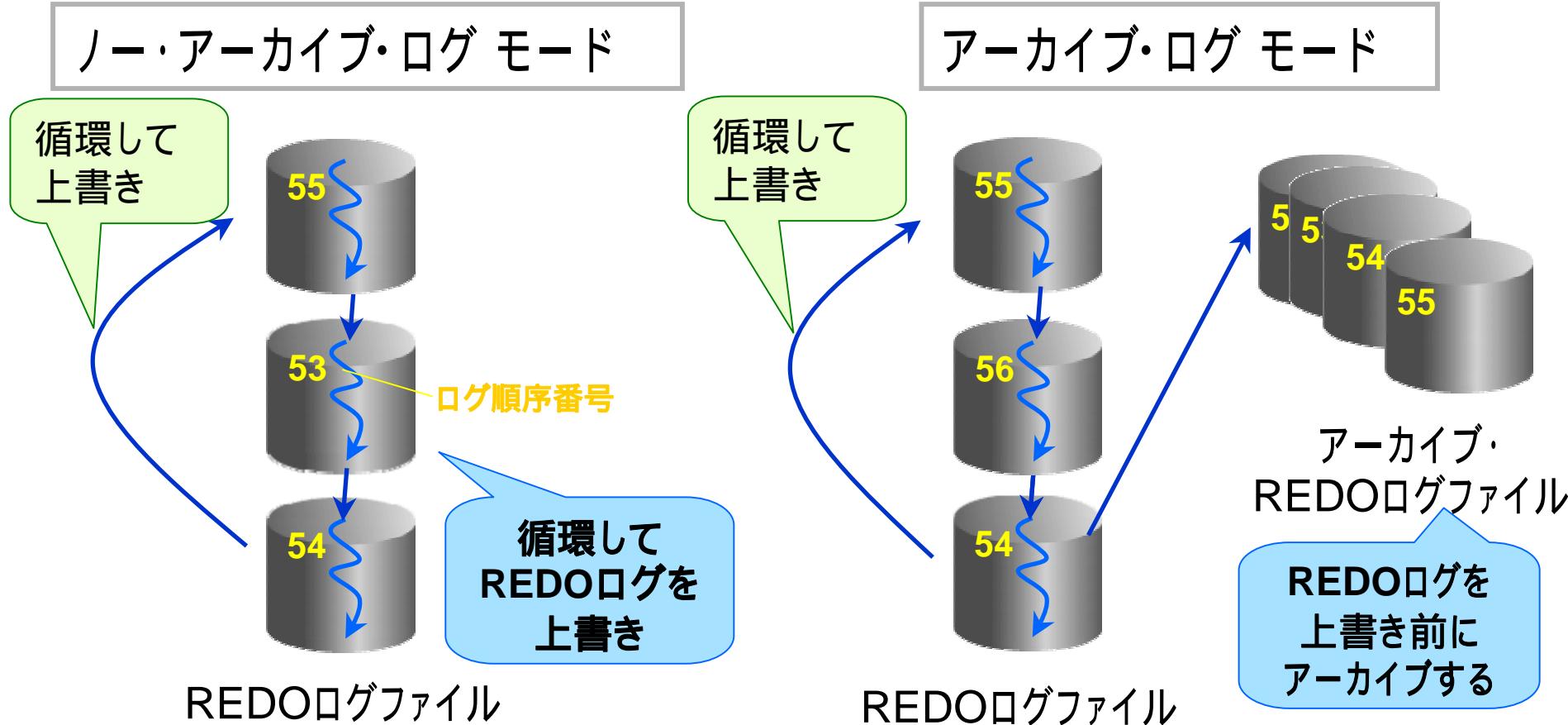
ORACLE

# リカバリ・オプションの設定

- **フラッシュ・リカバリ領域**
  - 10gから導入されたバックアップ・リカバリ用の領域
  - フラッシュ・リカバリ領域に取得したバックアップは自動管理されるため  
フラッシュ・リカバリ領域を使用することが推奨
    - 領域の使用率をEnterprise Managerから確認できる
    - バックアップの保存期間を指定することにより、保存期間を過ぎた  
古いバックアップを上書き可能
  - Enterprise Editionではフラッシュ・リカバリの機能のために使用
    - フラッシュバック・データベース
- **アーカイブの有効化**
  - アーカイブ・ログを出力
    - REDOログ(変更履歴ログ)のコピー
  - 障害直前までの復旧が可能
  - 部分バックアップ、オンラインバックアップが可能

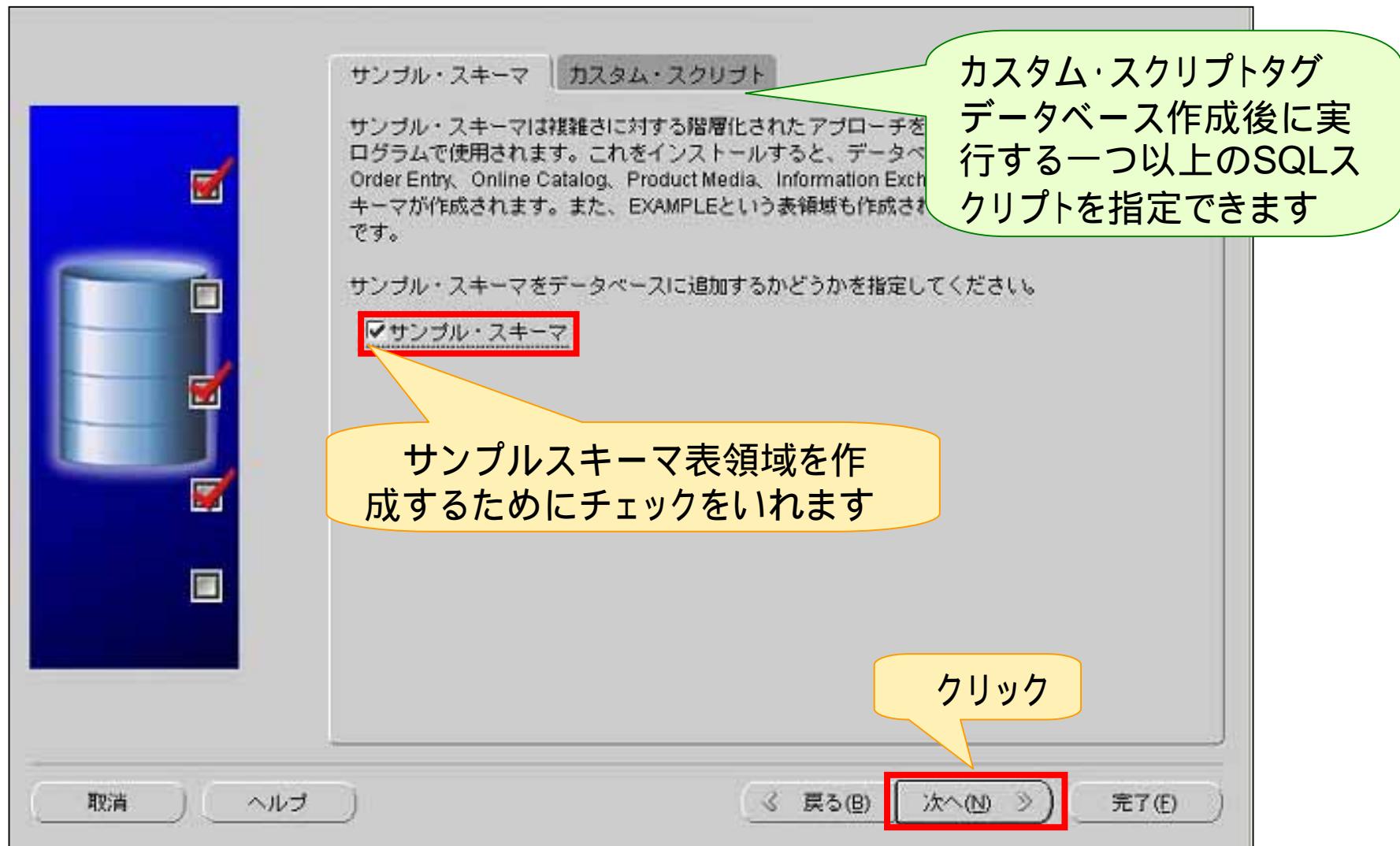
ORACLE®

# データベース運用モード



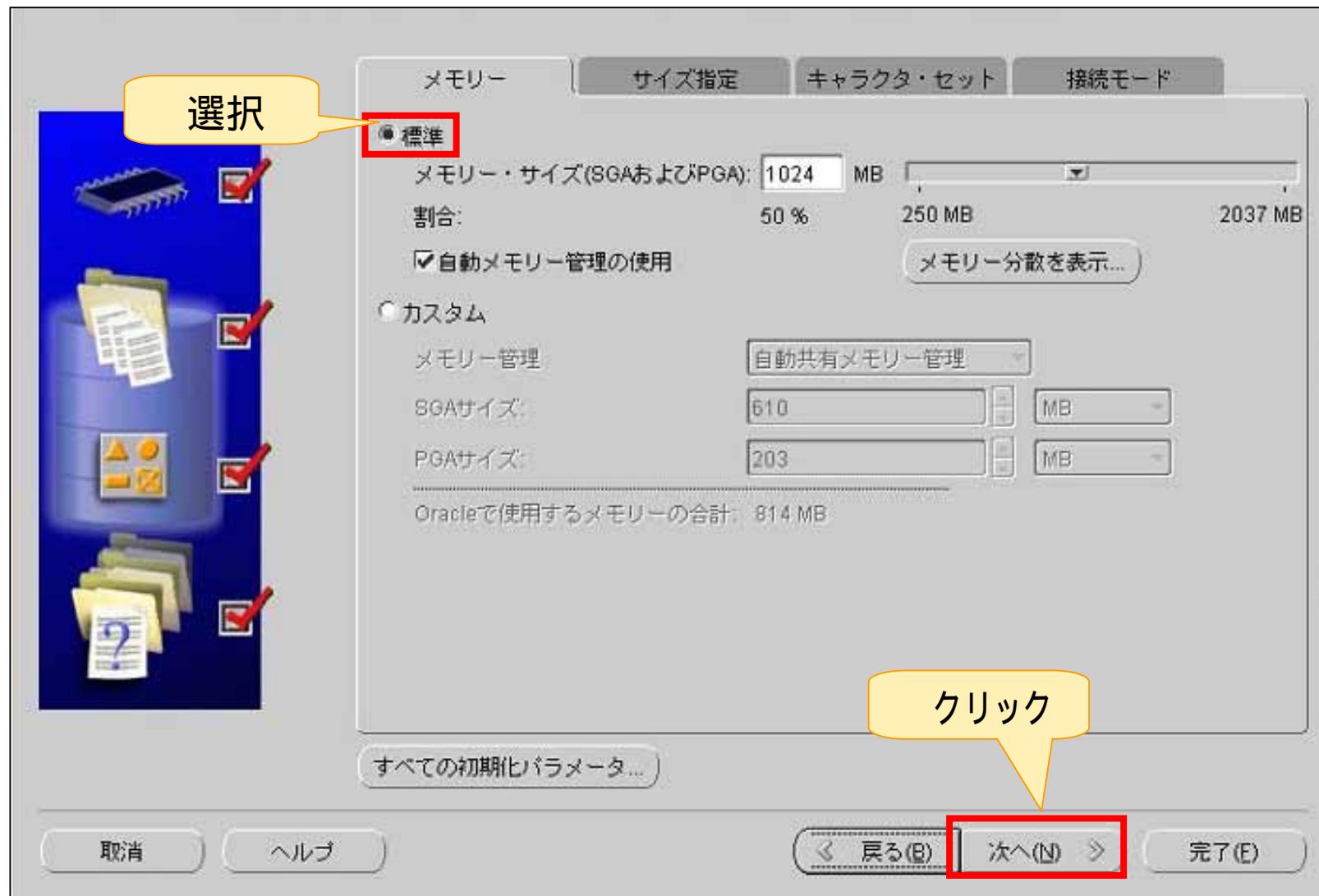
ORACLE

# データベースコンテンツを作成します



ORACLE

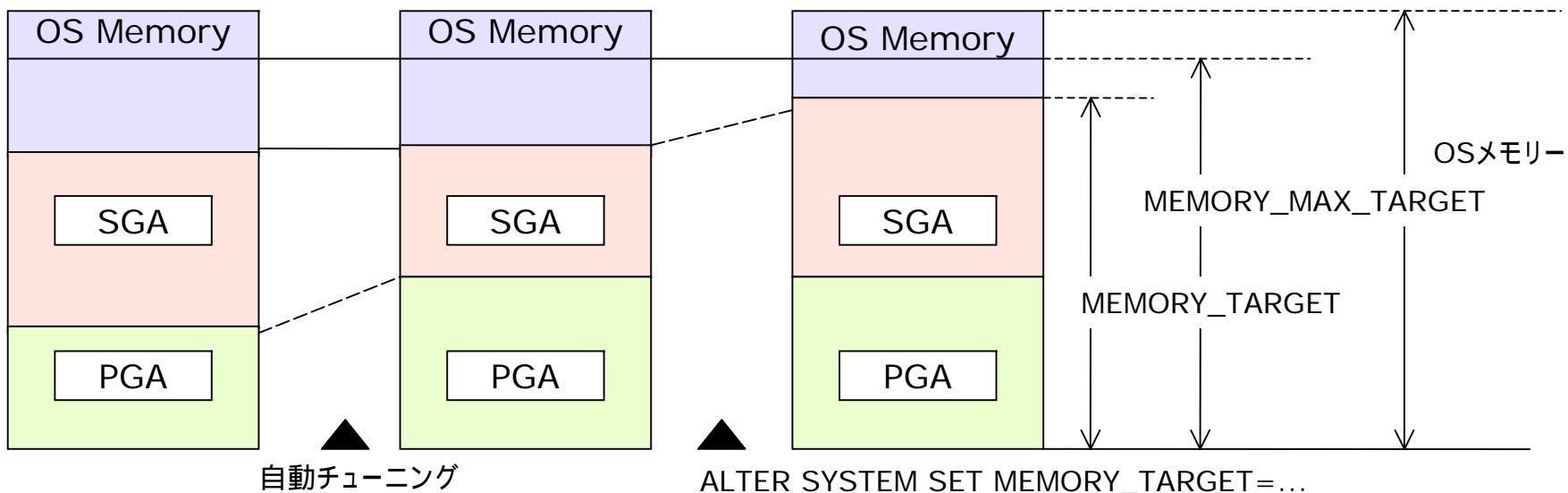
# メモリーの管理方法を設定します



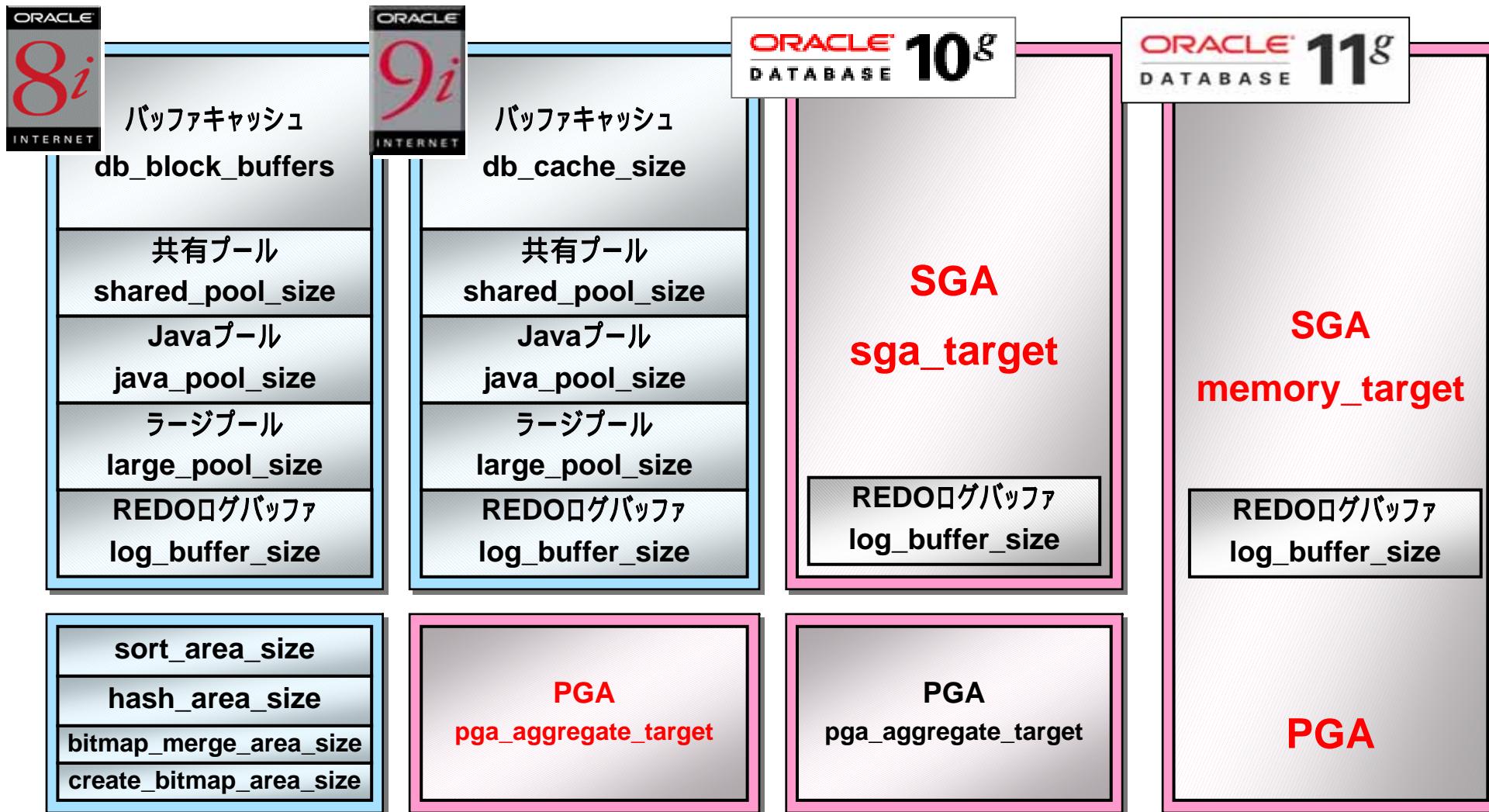
# 自動メモリー管理

## 自動メモリー管理

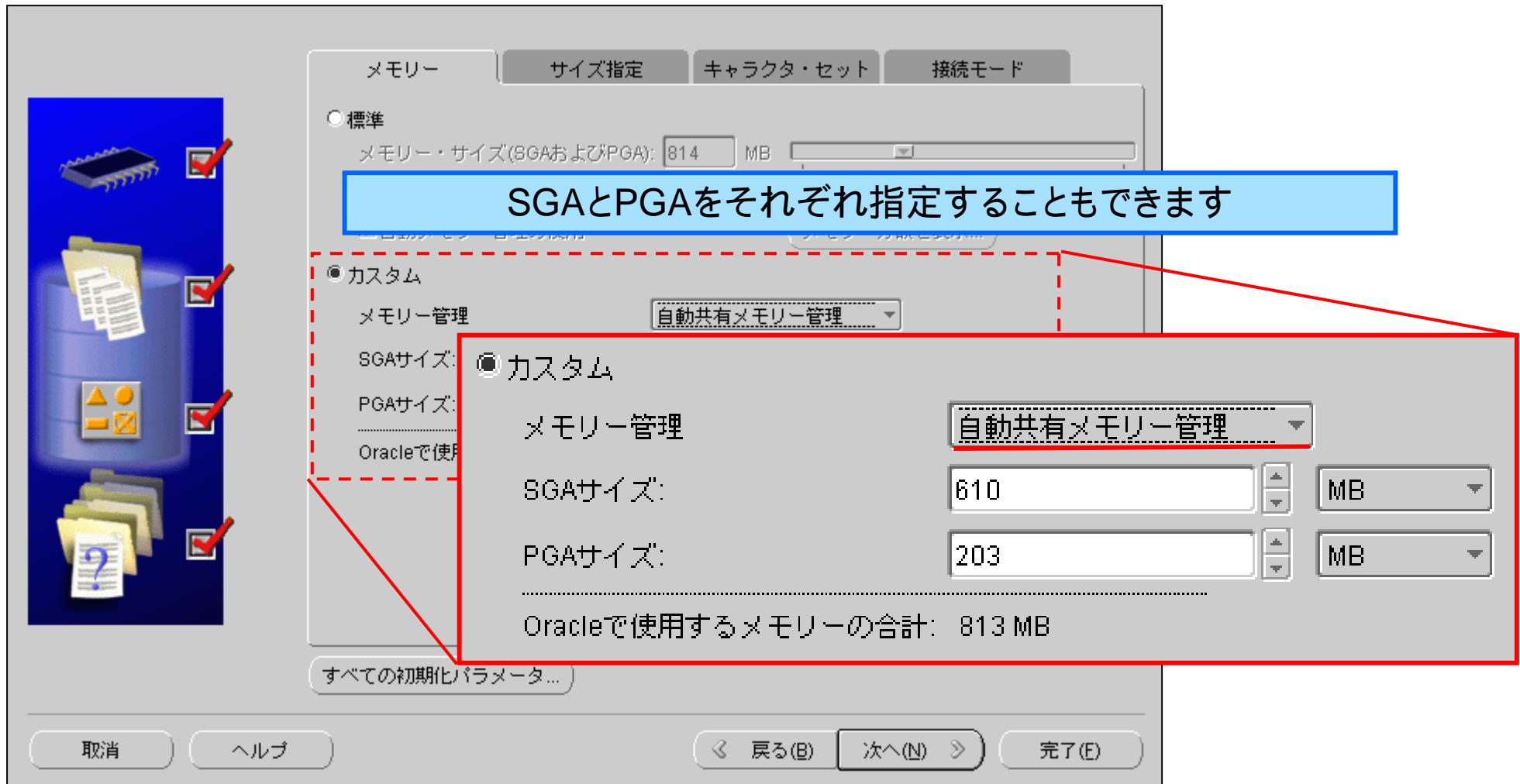
インスタンスに割り当てられたメモリー内で、SGAとPGAの間で必要に応じて動的に再割り当てを行えます



# 自動メモリー管理の進化

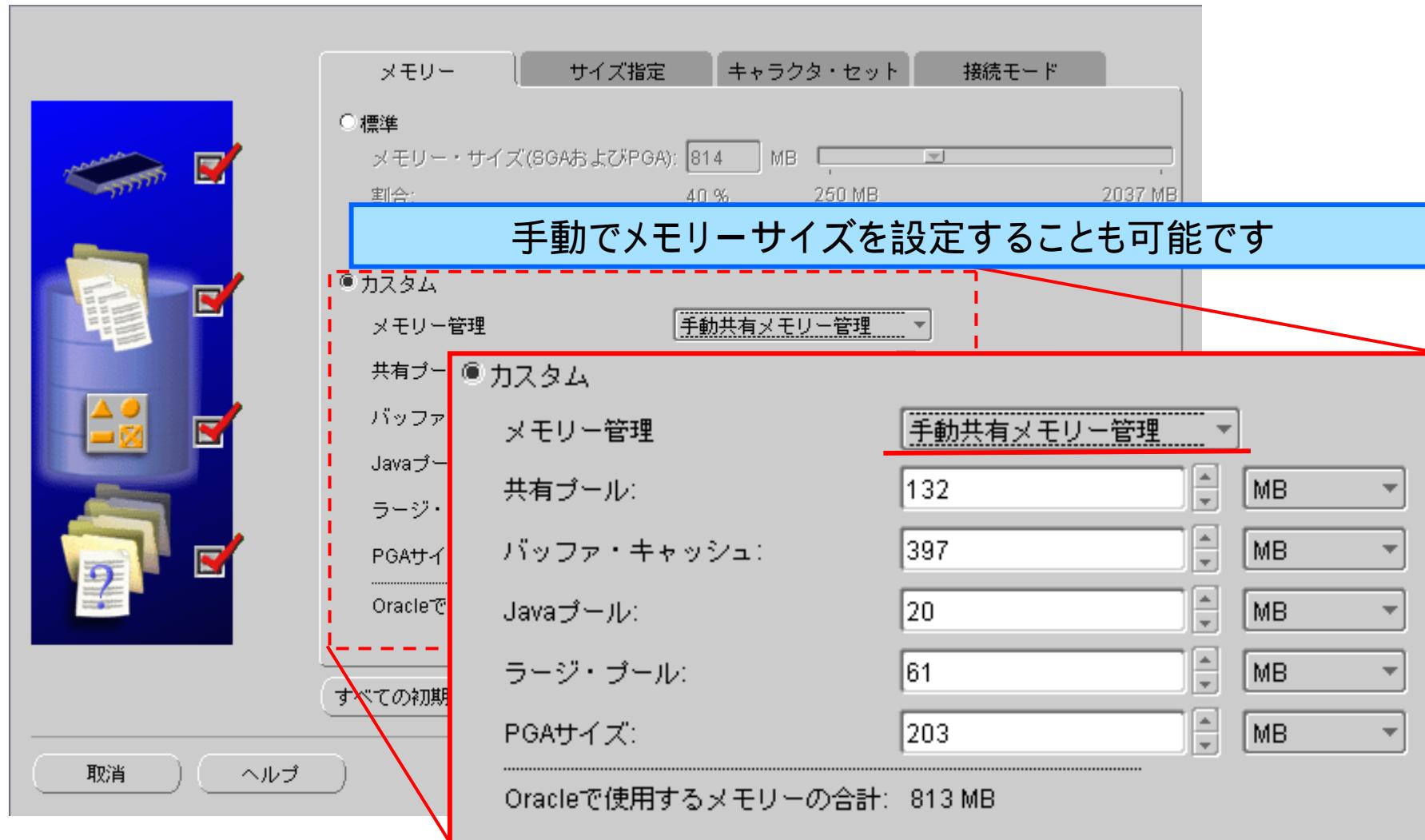


# メモリーの管理方法を設定します



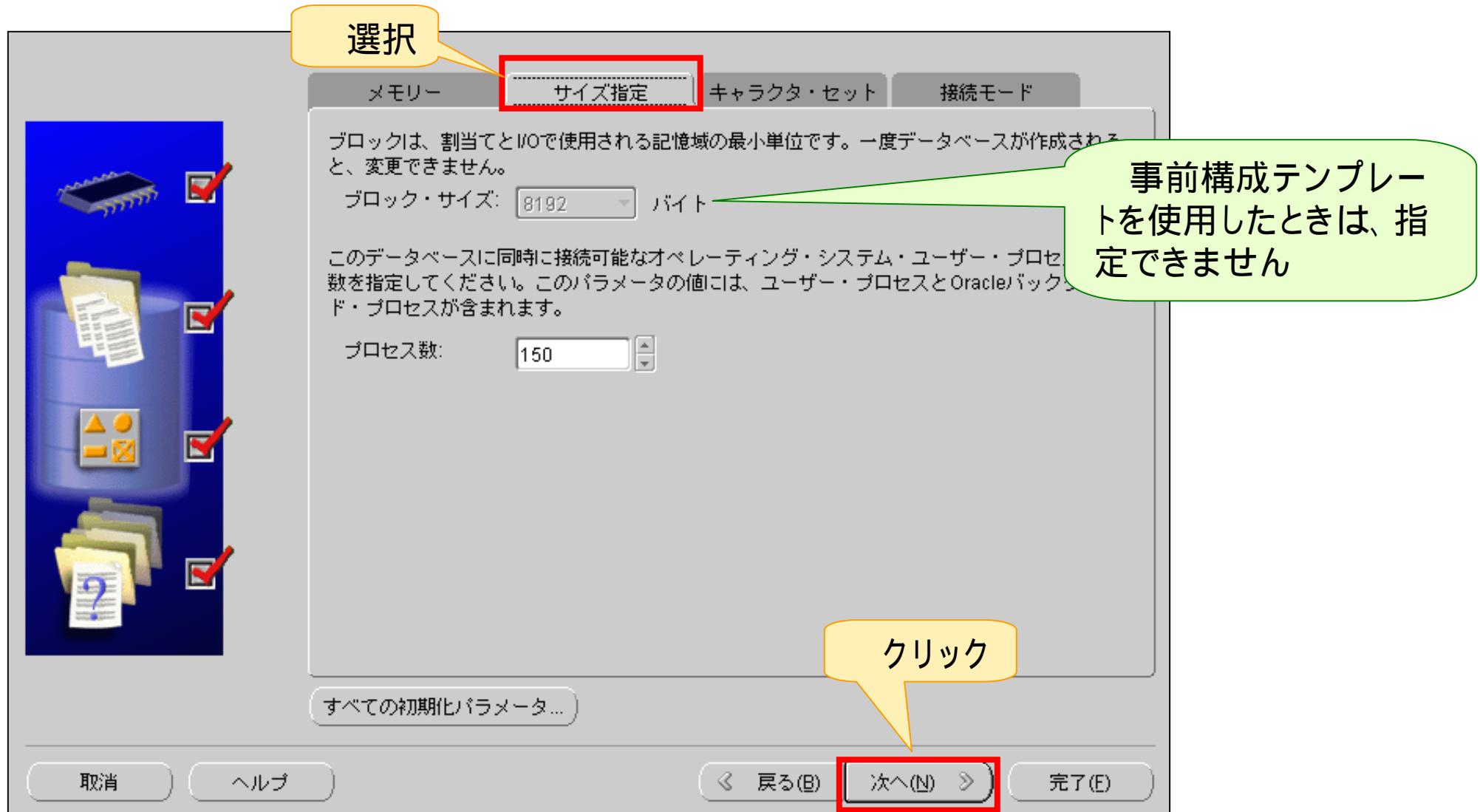
ORACLE

# メモリーの管理方法を設定します



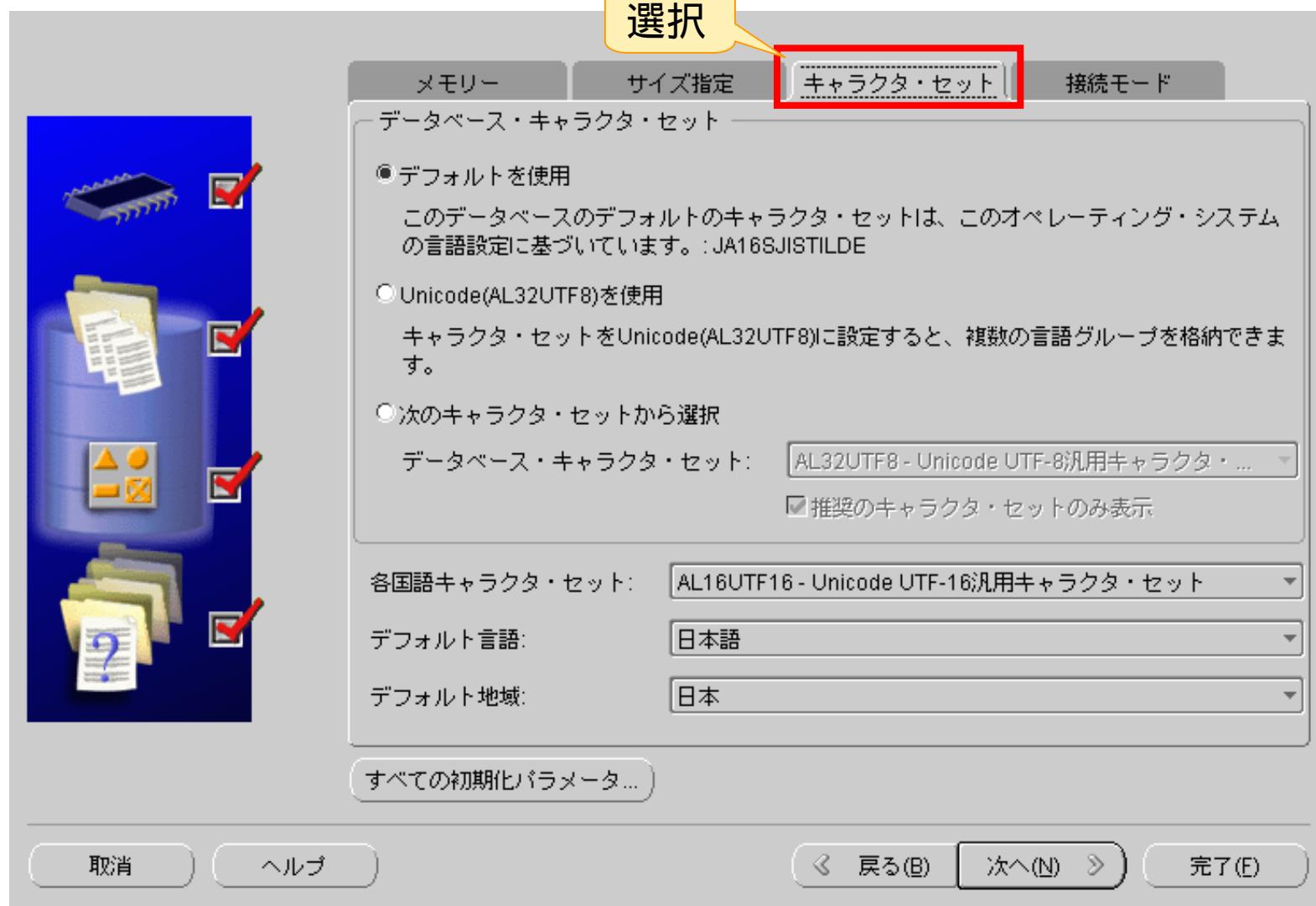
ORACLE

# ブロックサイズとユーザープロセス最大数を指定します



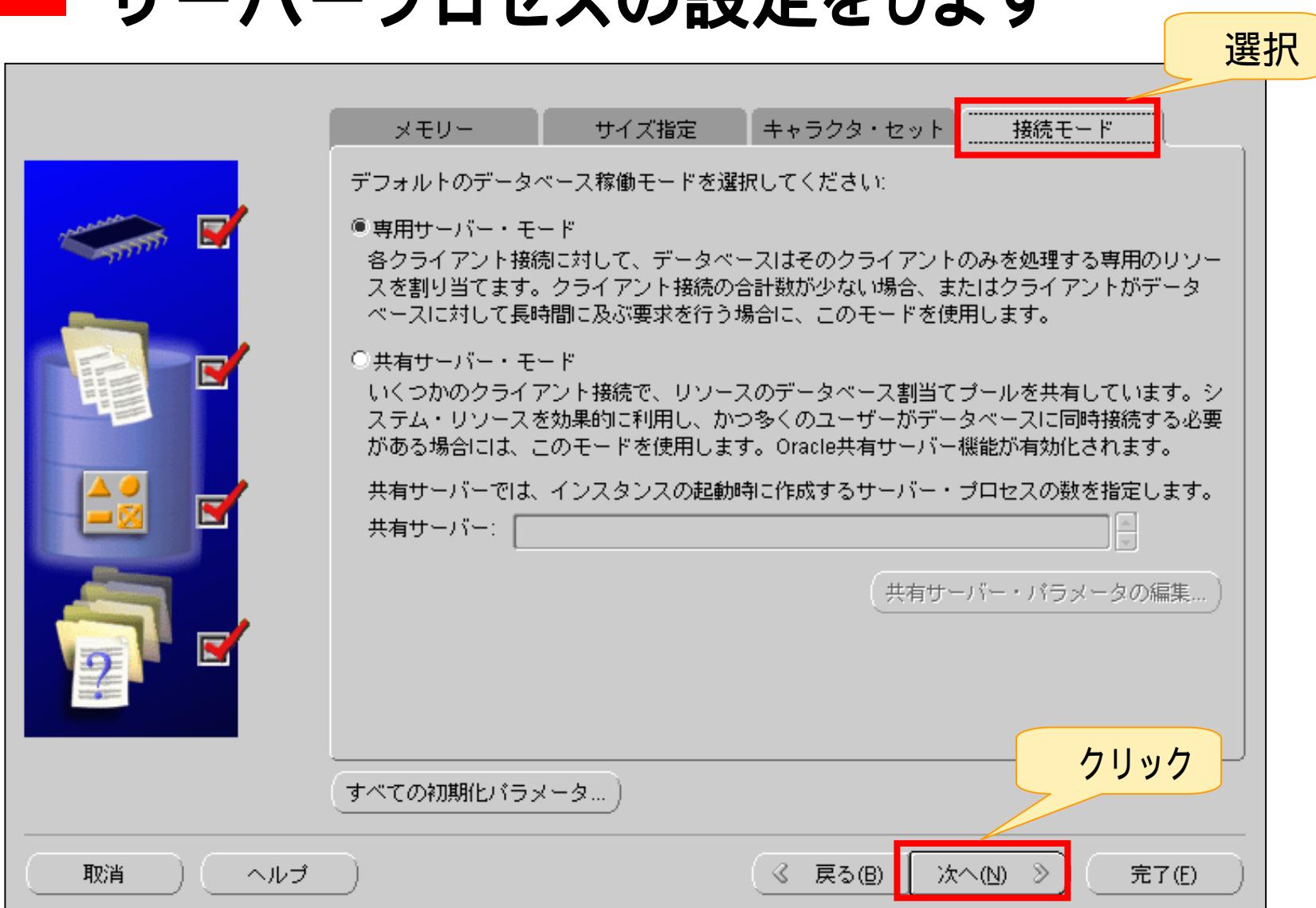
ORACLE

# データベースで使用するキャラクタセットを定義します



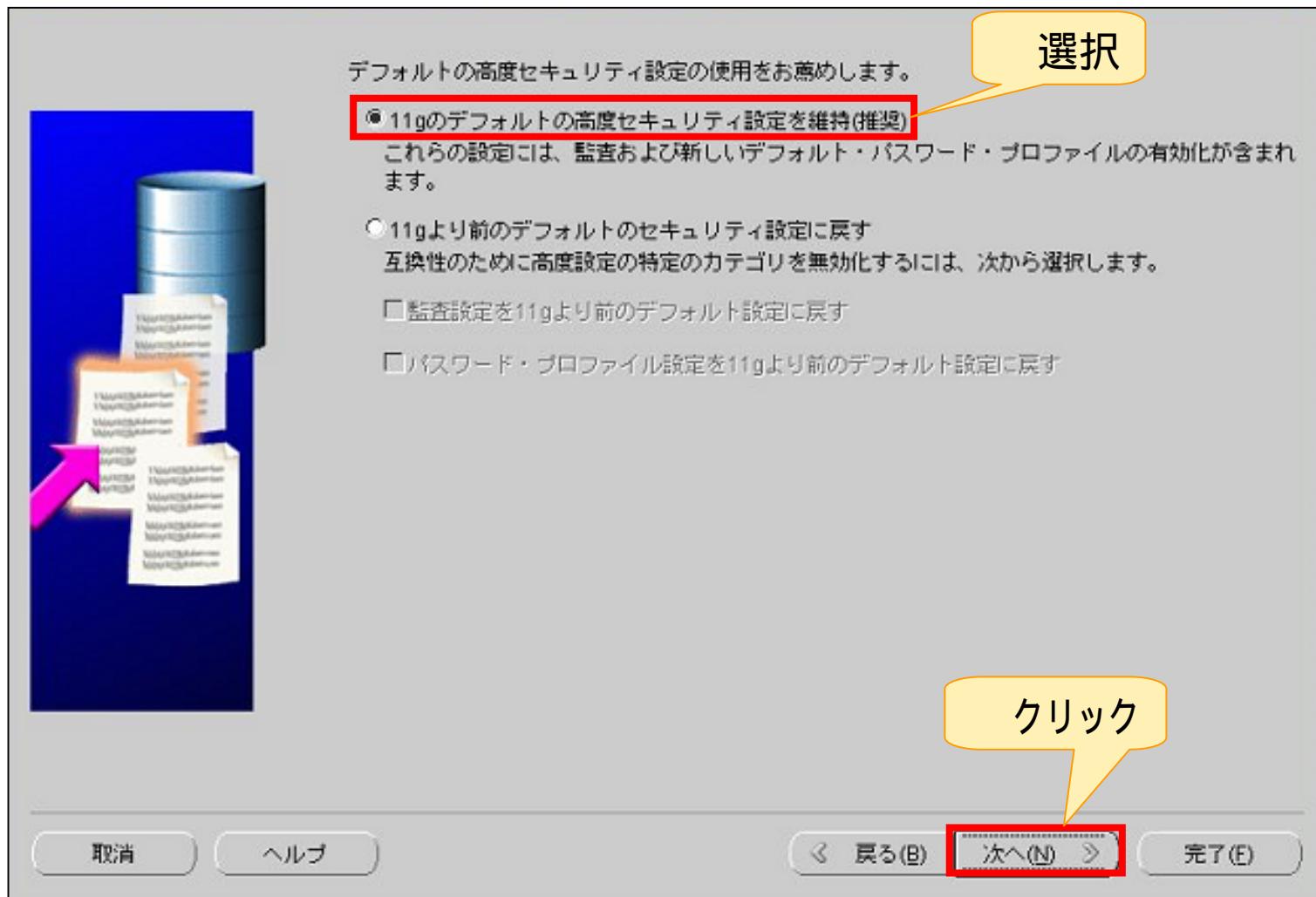
ORACLE

# サーバープロセスの設定をします



ORACLE

# セキュリティの設定選びます



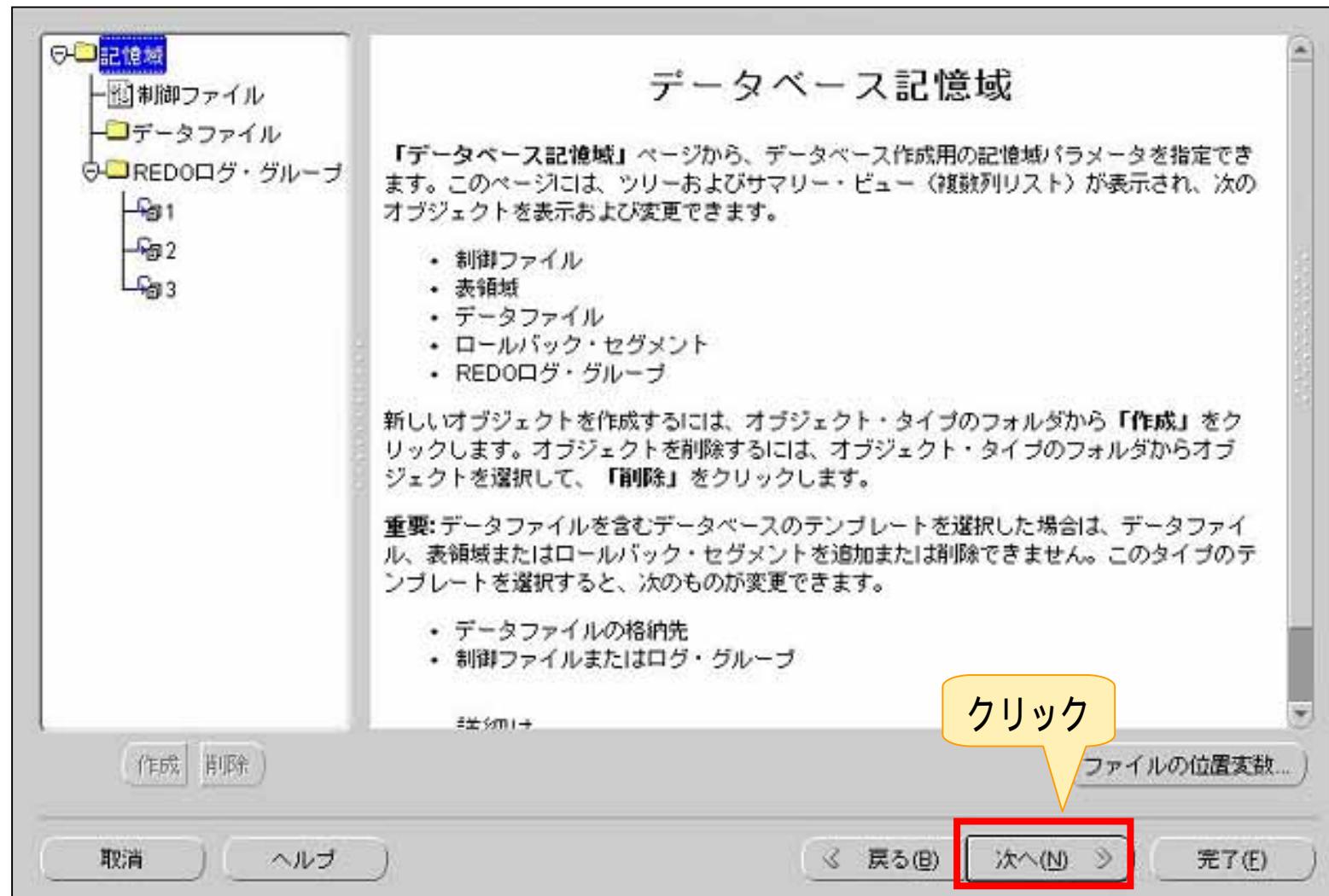
ORACLE

# 自動メンテナンス・タスクを有効化します



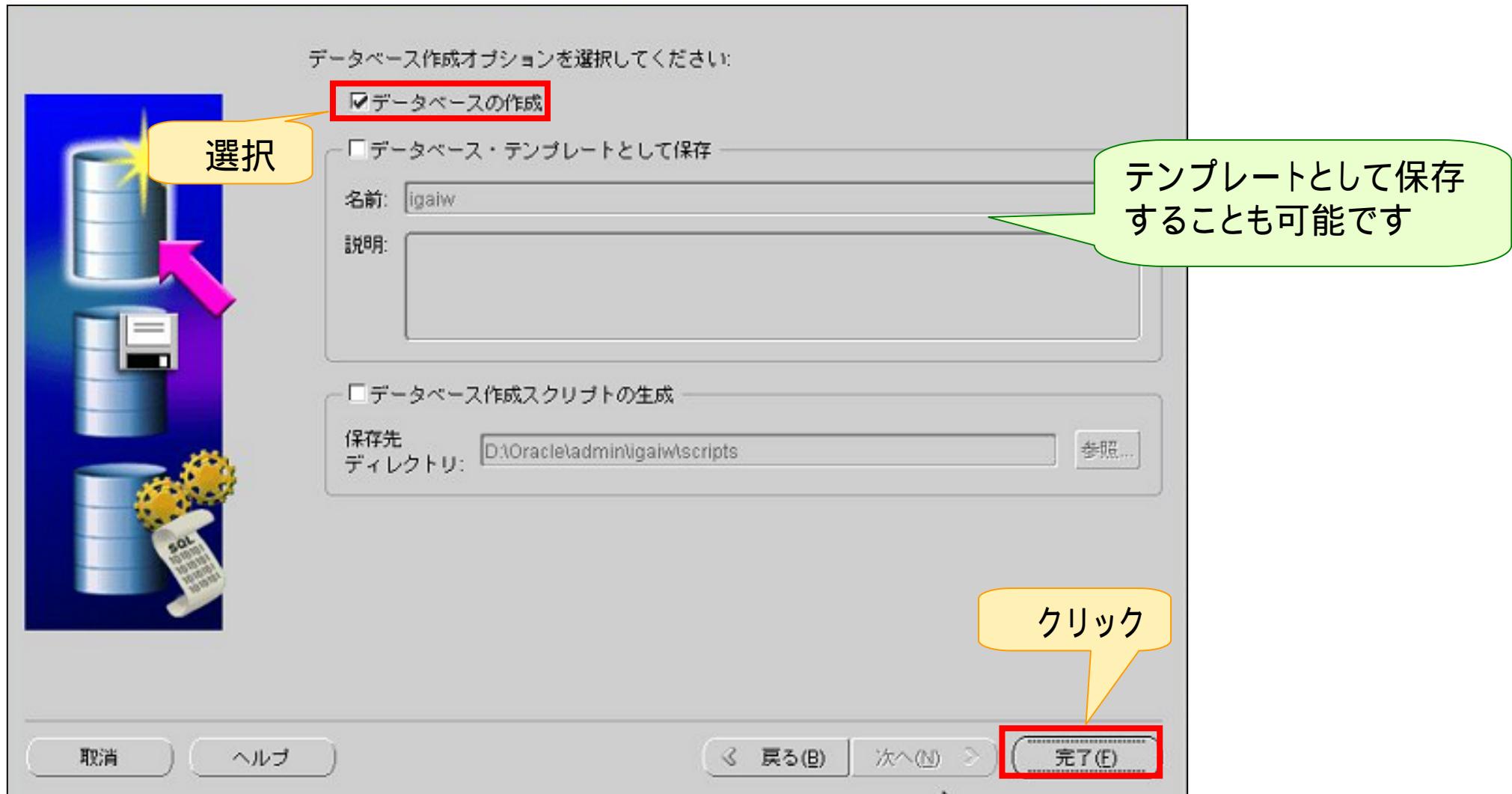
ORACLE

# データベース記憶域を確認・変更します



ORACLE

# データベースの作成します

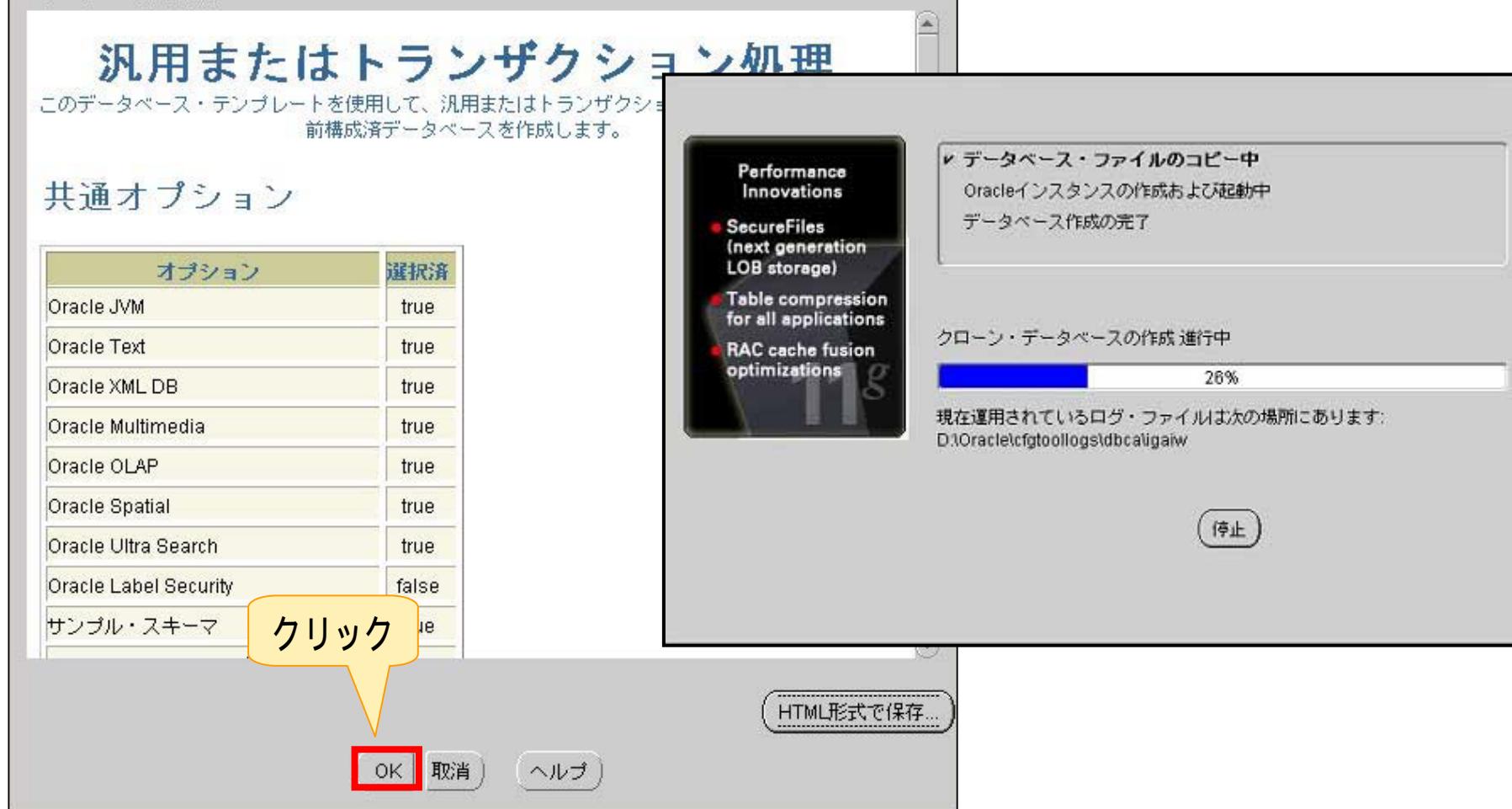


ORACLE

# データベースの構成情報を確認し、作成を実行します

次の操作が行われます:  
データベース"igaiw"を作成します。

データベースの詳細:



ORACLE

# データベースの作成完了を確認します

データベースの作成が完了しました。詳細は、次の場所にあるログ・ファイルを参照してください:

D:\Oracle\cfgtoollogs\dbcaligaiw.

## データベース情報:

グローバル・データベース名: igaiw.jp.oracle.com  
システム識別子(SID): igaiw  
サーバー・パラメータ・ファイル名: D:\Oracle\product\11.1.0\db\_1\database\spfileigaiw.ora

Database ControlのURLは<https://jpdel15dc.jp.oracle.com:5500/er>です

管理リポジトリは、Enterprise Managerデータが暗号化されるセキュア・モードで配置されています。暗号化キーはファイルD:\Oracle\product\11.1.0\db\_1\jpdel15dc.jp.oracle.com\_igaiw\sysman\config\emkey.oraに配置されています。このファイルが失われると暗号化データを使用できなくなるため、このファイルは必ずバックアップしてください。

注意: SYS、SYSTEM、DBSNMPおよびSYSMAN以外のすべてのデータベース・アカウントはロックされています。ロックされたアカウントの完全なリストを表示、またはデータベース・アカウント(DBSNMPとSYSMAN除く)を管理するには、「パスワード管理」ボタンを選択してください。「パスワード管理」ウィンドウで、使用するアカウントのみ、ロックを解除します。アカウントのロック解除後すぐに、デフォルトのパスワードを変更することをお薦めします。

パスワード管理...

クリック

終了

ORACLE

# Agenda

- Oracle Database の構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
- データベースの作成
- Enterprise Manager の利用
  - 事前準備 : Windows OS の設定
  - 事前準備 : DBconsole の起動
  - Enterprise Manager Database Console にログイン
  - データベースの起動と停止
- まとめ

## 無償技術サービス Oracle Direct Concierge

- SQL Server からの移行アセスメント
  - MySQL からの移行相談
  - PostgreSQL からの移行相談
  - Access からの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Web アップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
    - 簡易業務診断
  - メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

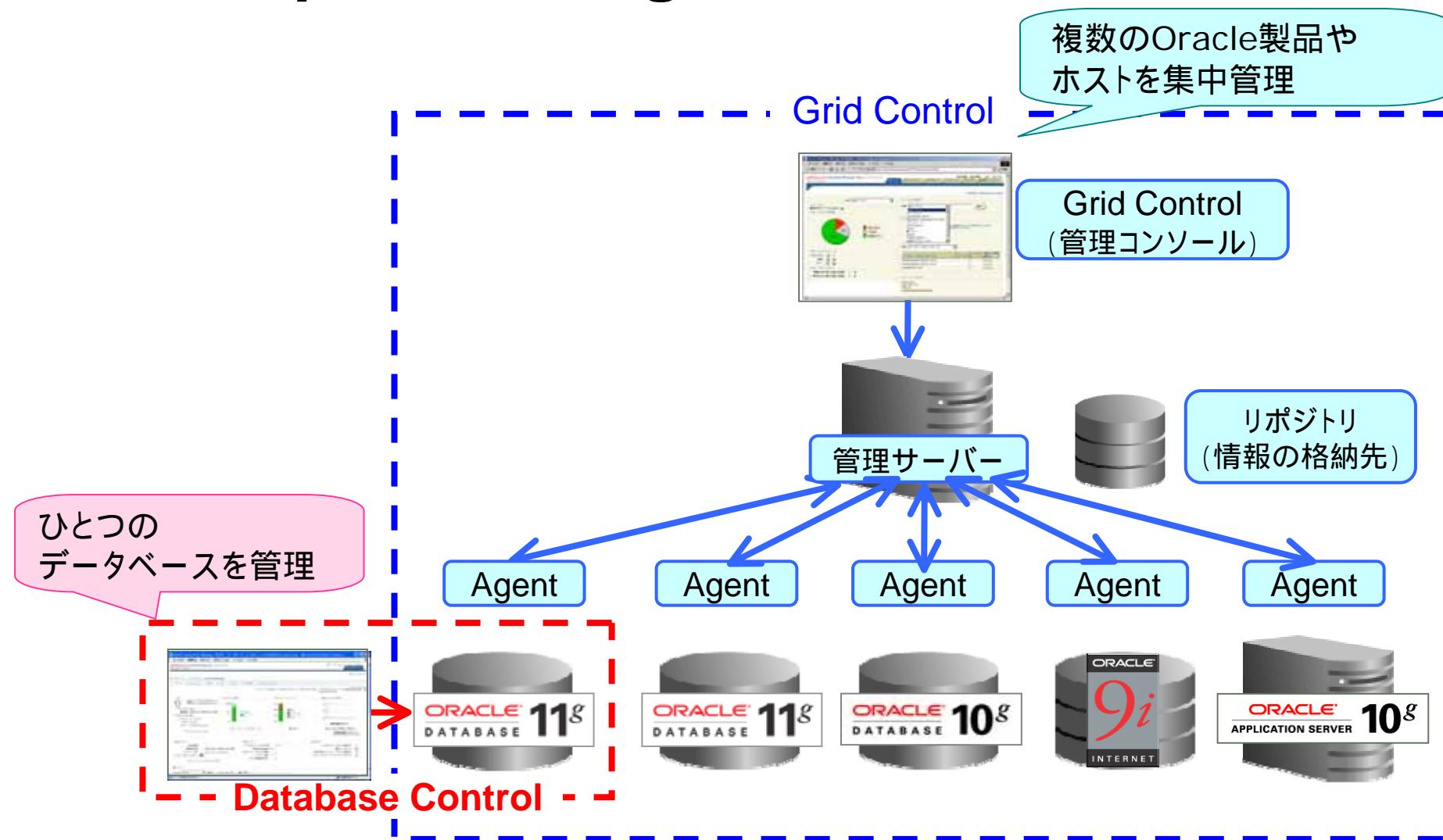
# Enterprise Manager Database Console

Enterprise Manager Database Console (以下EM): Oracle Databaseを管理するためのGUIツール

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 11g Database Control interface. The top navigation bar includes links for '設定' (Settings), 'プリファレンス' (Preferences), 'ヘルプ' (Help), 'ログアウト' (Logout), and 'データベース' (Database). A red box highlights the 'データベース' tab. Below the header, a message says 'SYSとしてログイン' (Log in as SYS). The main content area displays performance metrics for the database instance 'igaiw.jp.oracle.com'. The 'ホーム' (Home) tab is selected. The '一般' (General) section shows the instance status as '稼働中' (Running) with a start date of '2008/06/13 20時51分07秒 JST'. It also lists the instance name 'igaiw', version '11.1.0.6.0', host 'jpdel15dc.jp.oracle.com', and listener 'LISTENER\_jpdel15dc.jp.oracle...'. A green arrow points to the '停止' (Stop) button. The 'ホストCPU' (Host CPU) chart shows usage at approximately 40% for the 'igaiw' host. The 'アクティブ・セッション' (Active Session) chart shows activity levels for '待機' (Idle), 'ユーザーI/O' (User I/O), and 'CPU'. The 'SQLレスポンス時間' (SQL Response Time) chart is empty. The '診断サマリー' (Diagnostic Summary) section indicates 'ADDM実行が使用できません' (ADDM execution is not available). The '領域サマリー' (Region Summary) section shows disk space usage and fragmentation. The '高可用性' (High Availability) section displays backup and logging statistics.

ORACLE

# Enterprise Manager Database Console



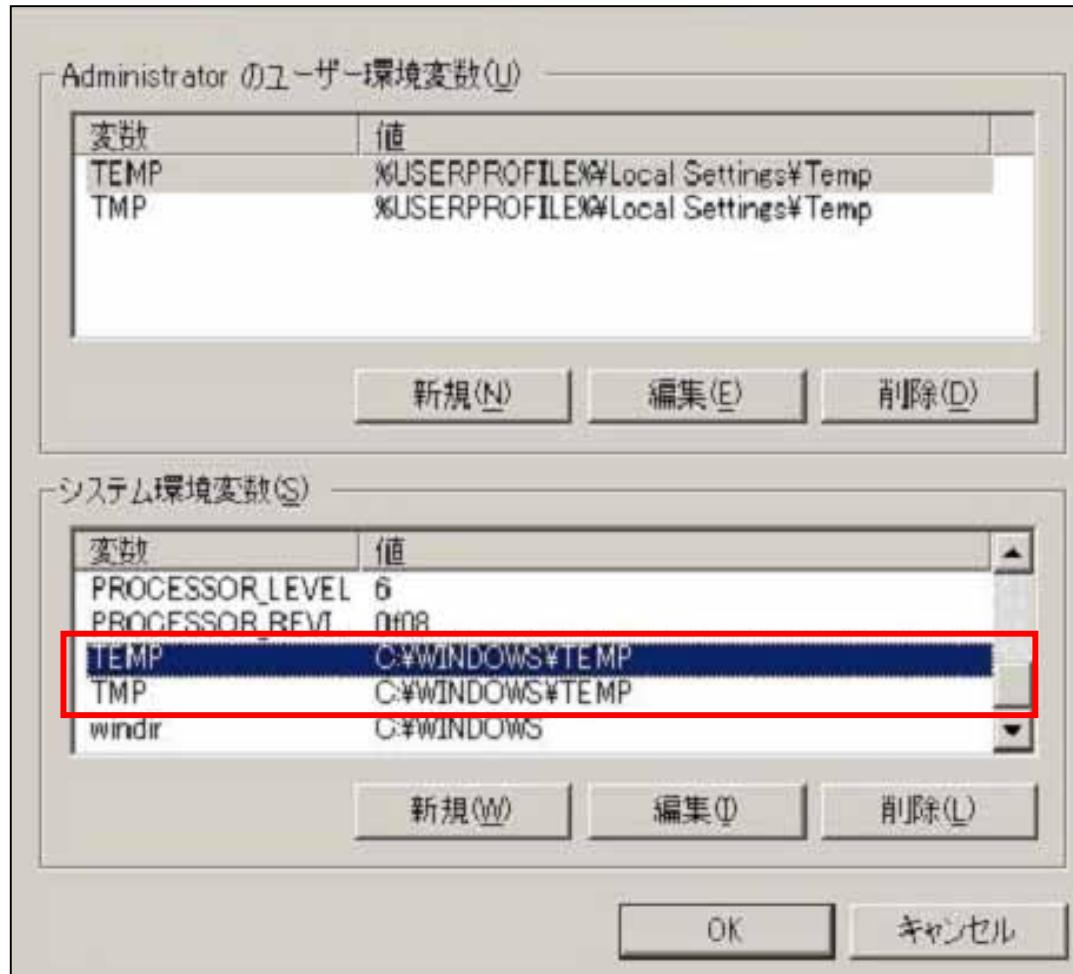
ORACLE

# EMを使うためにOSの設定を行います

- Windows OSの設定
  - システム環境変数%TEMP%,%TMP%で指定されているディレクトリへの権限をEM用のOSユーザーに付与
  - 「バッチジョブとしてログオン権限」をEM用のOSユーザーに付与

ORACLE®

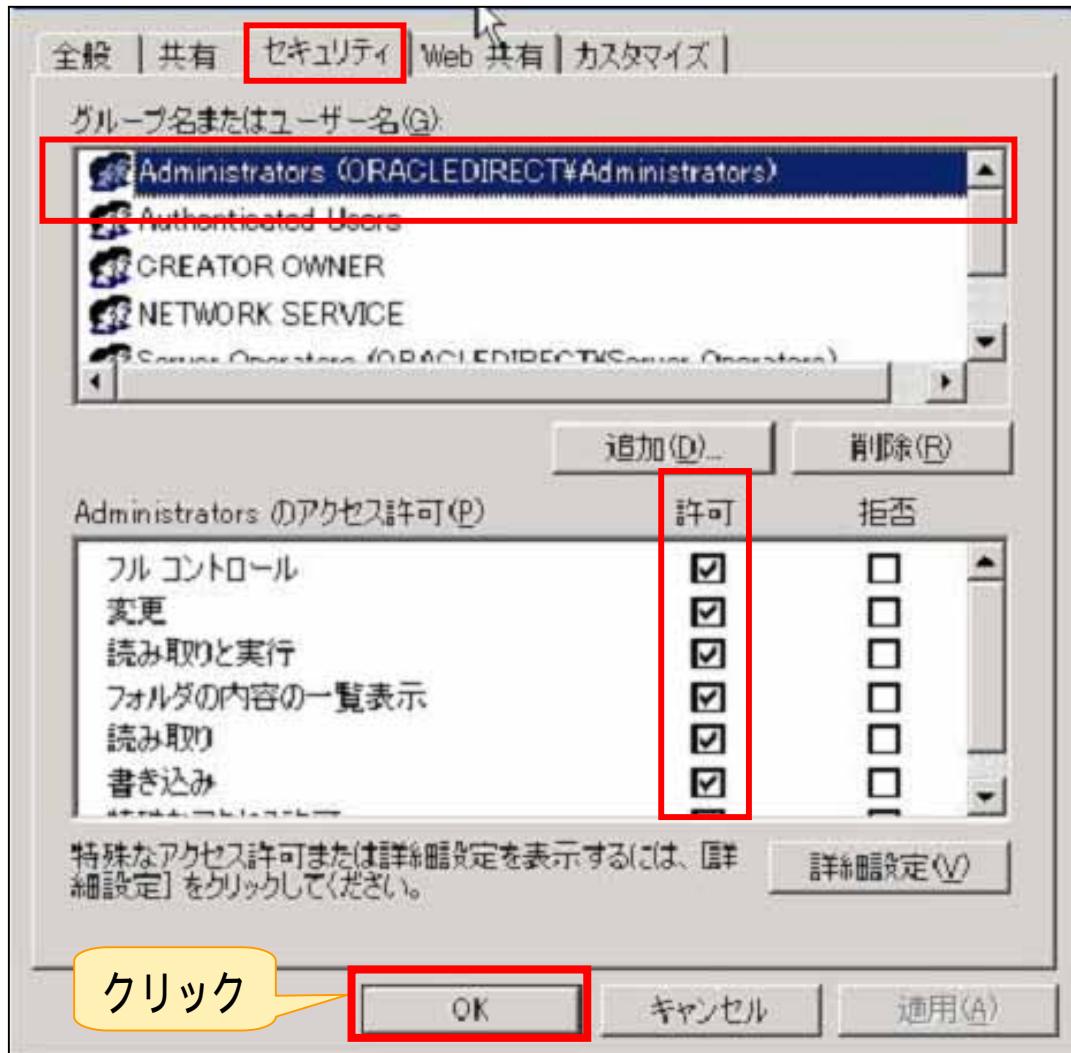
# TEMPディレクトリへの権限付与をします



## 環境変数設定画面表示方法

「マイコンピュータ」を右クリックし  
プロパティをクリック 「詳細設  
定タブ」の「環境変数」のボタン  
をクリック

# TEMPディレクトリへの権限付与をします



## 権限付与手順

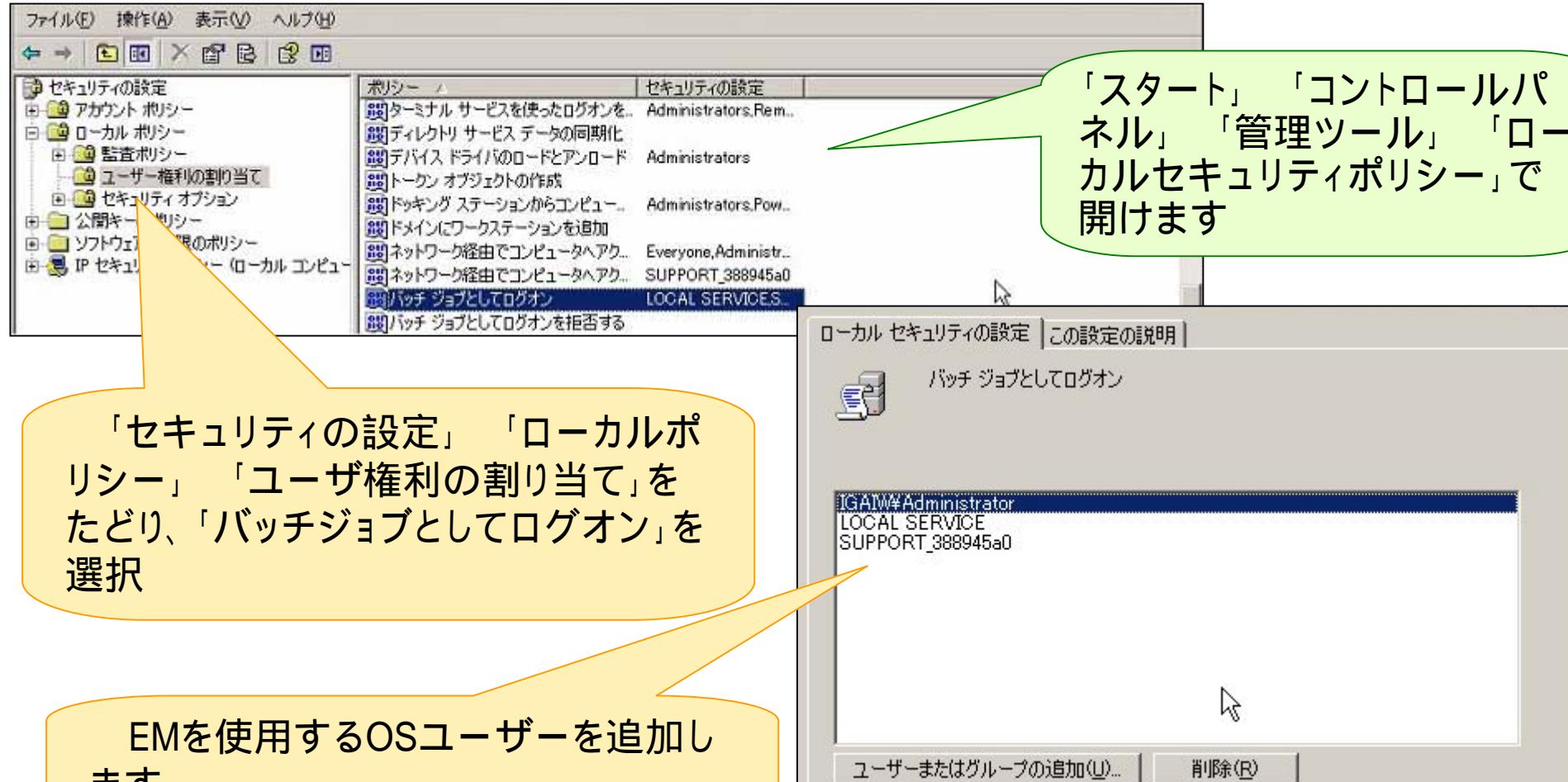
C:\WINDOWS\TEMPフォルダを右クリック

プロパティの「セキュリティ」タブを開く

EMを使うOSユーザにアクセス許可をする

ORACLE

# 「バッチジョブとしてログオン権限」を付与します



ORACLE

# EMの起動状況を確認します

```
C:\>set ORACLE_SID=<SID名>
```

データベースを稼動させるために、コマンドプロンプトで環境変数ORACLE\_SIDを設定します

```
C:\>emctl status dbconsole
```

EMが起動しているか確認します

```
Oracle Enterprise Manager 11g Database Control Release 11.1.0.6.0
```

```
Copyright (c) 1996, 2007 Oracle Corporation. All rights reserved.
```

```
https://jpdel15dc.jp.oracle.com:5500/em/console/aboutApplication
```

```
Oracle Enterprise Manager 11g is running.
```

```
Logs are generated in directory
```

Oracle Enterprise Manager 11g is not running と表示されたら、Database Controlは起動していません

```
D:\>Oracle\product\11.1.0\db_1\jpdel15dc.jp.oracle.com_igaiw\sysman\log
```

ORACLE

# EMを起動します

```
C:\>emctl start dbconsole
```

EMを起動させるためには、左にあるようにコマンド画面で入力します

```
C:\>emctl status dbconsole
```

EMが起動しているか確認します

```
Oracle Enterprise Manager 11g Database Control Release 11.1.0.6.0
```

```
Copyright (c) 1996, 2007 Oracle Corporation. All rights reserved.
```

```
https://jpdel15dc.jp.oracle.com:5500/em/console/aboutApplication
```

```
Oracle Enterprise Manager 11g is running.
```

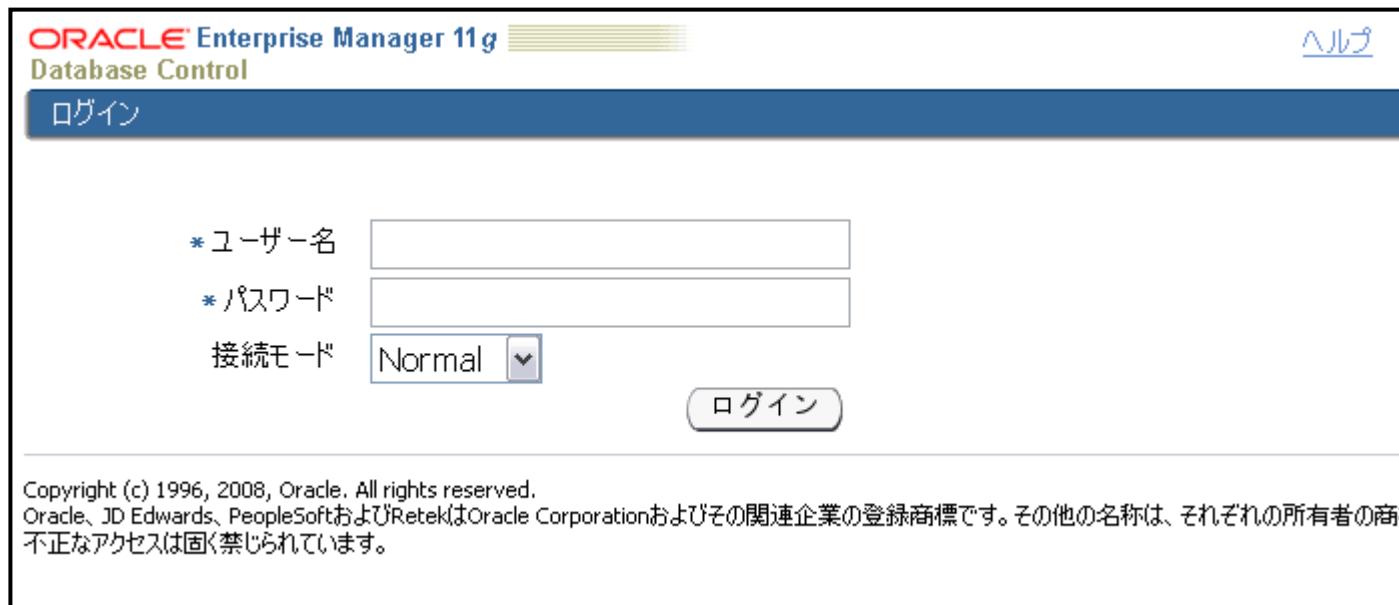
```
-----  
Logs are generated in directory
```

```
D:\Oracle\product\11.1.0\db_1\jpdel15dc.jp.oracle.com_igaiw\sysman\log
```

ORACLE

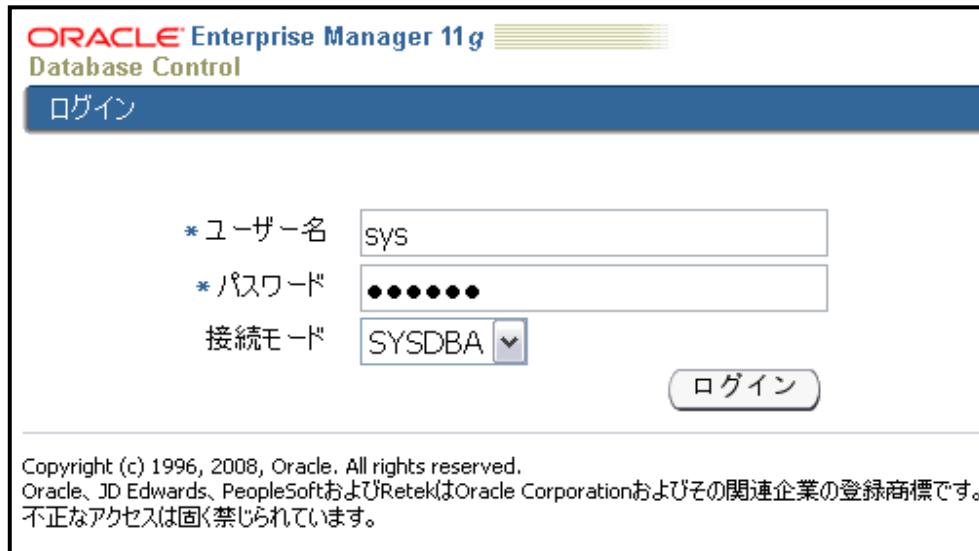
# ブラウザを起動してEMにアクセスします

https://<host name>:<port>/em  
e.g) https://igaiw.jp.oracle.com:1158/em



ORACLE

# Enterprise Manager Database Consoleにログイン



項目名	入力内容
ユーザー名	sys
パスワード	DB 作成時に指定したパスワード (この資料の例では oracle)
接続タイプ	SYSDBA

ORACLE

# Database Console ホーム画面

ORACLE Enterprise Manager 11g Database Control

設定 ブリファレンス ヘルプ ログアウト データベース SYSとしてログイン

データベース・インスタンス: igaiw.jp.oracle.com

ホーム パフォーマンス 可用性 サーバー スキーマ データ移動 ソフトウェアとサポート

ターゲットから最新データの収集 2008/06/13 20時59分05秒 JST リフレッシュ データの表示 自動(60秒)

一般

停止 ブラックアウト

ステータス 緊急中  
稼働開始 2008/06/13 20時51分07秒 JST  
インスタンス名 igaiw  
バージョン 11.1.0.6.0  
ホスト jpdel15dc.jp.oracle.com  
リスナー LISTENER\_jpdel15dc.jp.oracle...

すべてのプロパティの表示

ホストCPU

アクティブ・セッション

SQLレスポンス時間

参照収集は使用できません。  
SQLレスポンス時間(%) 使用不可  
参照収集のリセット

診断サマリー

ADDM結果 ADDM実行が使用できません  
アラート・ログ ORA-エラーはありません  
アクティブなインシデント 0  
データベース・インスタンスの状態

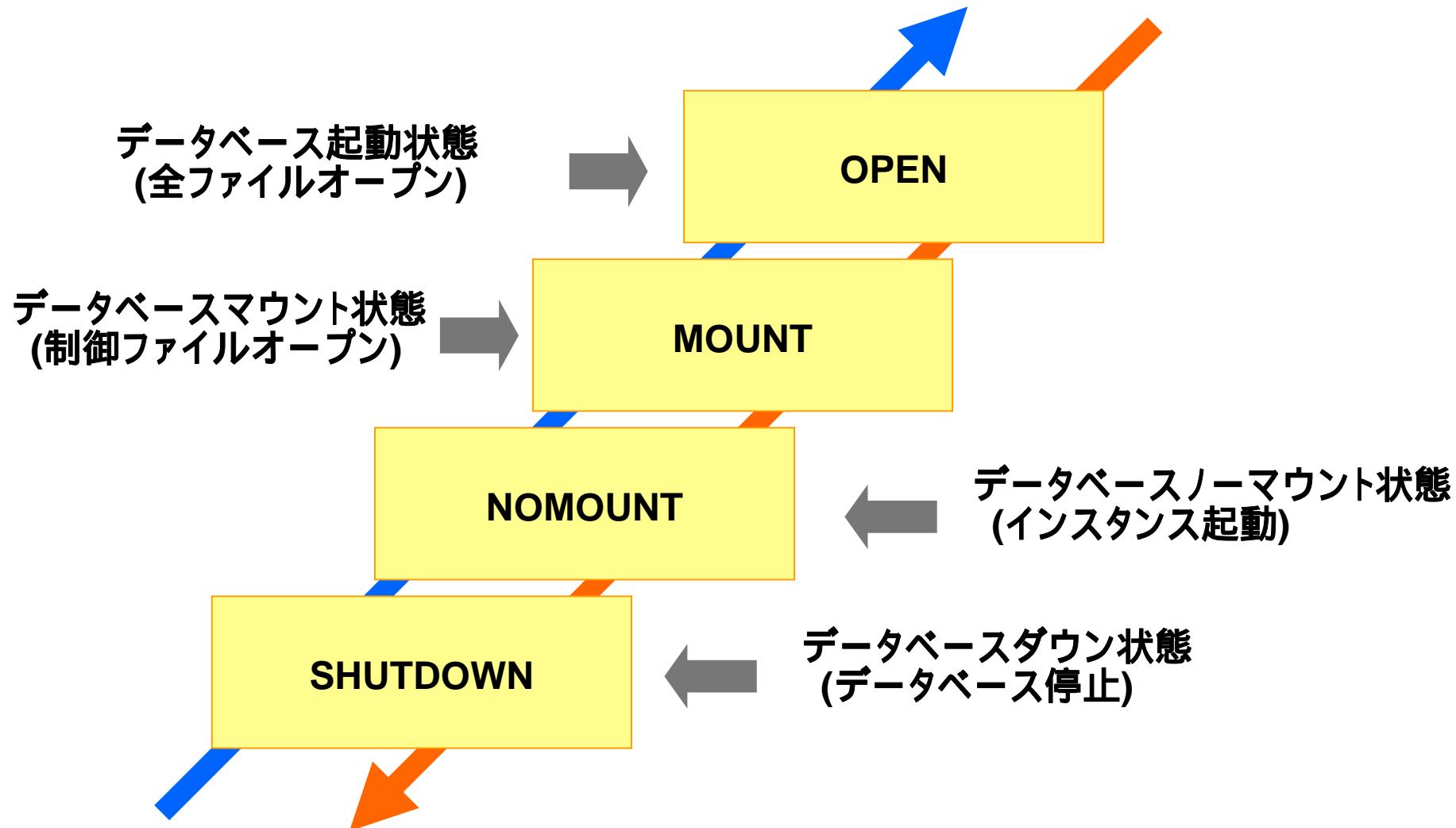
領域サマリー

高可用性

インスタンス・リカバリ時間(秒)	18
最終バックアップ	N/A
使用可能なフラッシュ・リカバリ領域(%)	95.46
フラッシュバック・データベース・ロギング	無効

ORACLE

# データベースの状態は4種類あります



ORACLE

# データベースを停止します

## 起動/停止:ホストとターゲット・データベースの資格証明の指定

データベースのステータスを変更するには、次の資格証明を指定してください。

### ホスト資格証明

OSユーザー名とパスワードを指定してターゲット・データベース・マシンにログインしてください。

* ユーザー名	oracle
* パスワード	*****

ホスト資格証明及び  
データベース資格証明  
を入力

### データベース資格証明

ターゲット・データベースの資格証明を指定してください。

OSの認証を使用するには、ユーザー名とパスワードの各フィールドを空白にしておいてください。

* ユーザー名	sys
* パスワード	*****
データベース	igaiw.jp.oracle.com
* 接続モード	SYSDBA

優先資格証明として保存

① データベースのステータスを変更するには、SYSDBAまたはSYSOPERとしてデータベ

### 起動/停止:確認

現行のステータス 閉く  
操作 停止即時  
この操作を実行しますか。

クリック

SQL表示 拡張オプション いいえ はい

# Database Console ホーム画面

データベース・インスタンス: igaiw.jp.oracle.com

Enterprise Managerはデータベース・インスタンスに接続できません。コンポーネントの状態は次のとおりです。

ページ・リフレッシュ 2009/03/08 21時37分22秒 JST (リフレッシュ)

データベース・インスタンス

起動 リカバリの実行

クリック

詳細 ユーザーが停止を開始しています。

起動

ステータス 停止中  
ホスト oradirect-jp.jp.oracle.com  
ポート 1521  
SID igaiw  
Oracleホーム D:¥ oracle¥ product¥ 11.1.0¥ db\_1

リスナー

インスタンスへのエージェント接続

失敗

ORA-12505: TNS: リスナーは接続記述子で指定されたSIDを現在認識していません (DBD ERROR: OCIAttachServer)

詳細 ユーザーが停止を開始しています。

起動

ステータス稼働中  
ホスト oradirect-jp.jp.oracle.com  
ポート 1521  
名前 LISTENER  
Oracleホーム D:¥ oracle¥ product¥ 11.1.0¥ db\_1  
場所 D:¥ oracle¥ product¥ 11.1.0¥ db\_1¥ network¥ admin  
詳細

ORACLE

# データベースを起動します

## 起動/停止:ホストとターゲット・データベースの資格証明の指定

データベースのステータスを変更するには、次の資格証明を指定してください。

### ホスト資格証明

OSユーザー名とパスワードを指定してターゲット・データベース・マシンにログインしてください。

* ユーザー名	oracle
* パスワード	*****

ホスト資格証明及び  
データベース資格証明  
を入力

### データベース資格証明

ターゲット・データベースの資格証明を指定してください。

OSの認証を使用するには、ユーザー名とパスワードの各フィールドを空白にしておいてください。

* ユーザー名	sys
* パスワード	*****
データベース	igaiw.jp.oracle.com
* 接続モード	SYSDBA

優先資格証明として保存

① データベースのステータスを変更するには、SYSDBAまたはSYSOPERとしてデータベースを起動/停止してください。

### 起動/停止:確認

現行のステータス 停止

操作 openモードでデータベースを起動

初期化パラメータ デフォルト

この操作を実行しますか。

(SQL表示) (拡張オプション) (いいえ) (はい)

クリック

ORACLE

# データベースが起動しているのが確認できます

ORACLE Enterprise Manager 11g Database Control

SYSとしてログイン データベース

データベース・インスタンス: igaiw.jp.oracle.com

ホーム パフォーマンス 可用性 サーバー スキーマ データ移動 ソフトウェアとサポート

ターゲットから最新データの収集 2008/06/13 20時59分05秒 JST リフレッシュ データの表示 自動(60秒)

一般

停止 ブラックアウト

ステータス 緊急中  
稼働開始 2008/06/13 20時51分07秒 JST  
インスタンス名 igaiw  
バージョン 11.1.0.6.0  
ホスト jpdel15dc.jp.oracle.com  
リスナー LISTENER\_jpdel15dc.jp.oracle.com

すべてのプロパティの表示

ホストCPU

アクティブ・セッション

SQLレスポンス時間

参照収集は使用できません。  
SQLレスポンス時間(%) 使用不可  
参照収集のリセット

診断サマリー

ADDM結果 ADDM実行が使用できません  
アラート・ログ ORA-エラーはありません  
アクティブなインシデント 0  
データベース・インスタンスの状態

領域サマリー

高可用性

インスタンス・リカバリ時間(秒)	18
最終バックアップ	N/A
使用可能なフラッシュ・リカバリ領域(%)	95.46
フラッシュバック・データベース・ロギング	無効

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 11g interface for the database instance igaiw.jp.oracle.com. The 'General' section on the left is highlighted with a red box, showing the status as '緊急中' (Emergency) with a green arrow icon, and the last check time as '2008/06/13 20時51分07秒 JST'. It also lists the instance name (igaiw), version (11.1.0.6.0), host (jpdel15dc.jp.oracle.com), and listener (LISTENER\_jpdel15dc.jp.oracle.com). The 'Host CPU' chart shows usage for 'その他' (Other) and 'igaiw'. The 'Active Sessions' chart shows activity for '待機' (Idle), 'ユーザーI/O' (User I/O), and 'CPU'. The 'SQL Response Time' chart is empty with a note '参照収集は使用できません' (Referential collection cannot be used). The 'Diagnosis Summary' section shows no ADDM results or alerts. The 'Region Summary' and 'High Availability' sections provide summary statistics for the database.

ORACLE

# まとめ

## データベースの推奨構築方法

OUIよりOracle ソフトウェアをインストールする

Net CAよりリスナーを構成する

DBCAよりデータベースを構成する

EMでOracle Databaseを管理する

**GUI上でOracle Databaseを  
構築できる!**

ORACLE®



# 年末ダイセミ受講感謝キャンペーン

Oracle Direct Seminarを御愛護頂き、誠にありがとうございます。感謝の気持ちを込めまして、**合計100名様**にWendy2010年版カレンダーをプレゼントいたします。11月・12月に開催のダイセミを2つ以上受講頂いた方が対象です。是非皆様奮ってご応募下さい!!

プレゼントの送付先は、セミナ登録時にご登録されている貴社住所宛てに送付させて頂きます。

お客様の登録情報に、a.貴社名、b.部署名、c.役職名、d.住所が正しく登録されていることをご確認ください。

a,b,c,dの情報が**正しく登録されていない場合はご応募が無効**となりますのでご注意下さい。

お客様情報の変更はこちらから実施頂けます。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/membership/index.html>

応募方法



[ORD\\_SEMINAR\\_JP@ORACLE.COM](mailto:ORD_SEMINAR_JP@ORACLE.COM)

【タイトル】年末カレンダー応募

【必要情報】

- 1、ご登録の氏名
- 2、ご登録の貴社名、所属部署名
- 3、受講された2009年11月・12月開催のセミナタイトル
- 4、現在ご検討中のシステムについてなど、Oracle Directに相談されたいことなどございましたら記載ください。

必要情報を明記のうえ、メールでご応募ください。当選者の発表は発送をもってかえさせて頂きます。



ORACLE

# OTN × ダイセミ でスキルアップ!!



- ・技術的な内容について疑問点を解消したい！
- ・一般的なその解決方法などを知りたい！
- ・セミナ資料など技術コンテンツがほしい！

Oracle Technology Network(OTN)を御活用下さい。

<http://otn.oracle.co.jp/forum/index.jspa?categoryID=2>

セミナーに関連する技術的なご質問は、OTN掲示版の  
「データベース一般」へ

OTN掲示版は、基本的にOracleユーザー有志からの回答となるため100%回答があるとは限りません。  
ただ、過去の履歴を見ると、質問の大多数に関してなんらかの回答が書き込まれてあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/ondemand/otn-seminar/index.html>

過去のセミナ資料、動画コンテンツはOTNの  
「OTNコンテンツ オン デマンド」へ

セミナ事務局にダイセミ資料を請求頂いても、お受けできない可能性がございますので予めご了承ください。  
ダイセミ資料はOTNコンテンツ オン デマンドか、セミナ実施時間内にダウンロード頂くようお願い致します。

ORACLE

# ITプロジェクト全般に渡る無償支援サービス

## Oracle Direct Conciergeサービスメニュー

システム運用状況の診断

- パフォーマンス・クリニック・サービス
- システム・セキュリティ診断サービス
- データ管理最適化サービス

経営企画

運用

IT企画

構築

設計

システム構築時の道案内

- Access / SQL Serverからの移行
- MySQL / PostgreSQLからの移行
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer Webアップグレード
- システム連携アセスメントサービス

業務改善計画の作成支援

- 業務診断サービス
- BIアセスメントサービス

システム企画の作成支援

- 業務診断サービス
- BIアセスメントサービス

RFP / 提案書の作成支援

- BIアセスメントサービス
- メインフレーム資産活用相談サービス
- 仮想化アセスメントサービス
- Oracle Database 構成相談サービス
- Oracle Database 高可用性クリニック



あなたにいちばん近いオラクル

# Oracle Direct

まずはお問合せください

Oracle Direct

検索

システムの検討・構築から運用まで、ITプロジェクト全般の相談窓口としてご支援いたします。

システム構成やライセンス/購入方法などお気軽にお問い合わせ下さい。

## Web問い合わせフォーム

専用お問い合わせフォームにてご相談内容を承ります。

[http://www.oracle.co.jp/inq\\_pl/INQUIRY/quest?rid=28](http://www.oracle.co.jp/inq_pl/INQUIRY/quest?rid=28)

フォームの入力には、Oracle Direct Seminar申込時と同じ  
ログインが必要となります。

こちらから詳細確認のお電話を差し上げる場合がありますので、ご登録さ  
れて  
いる連絡先が最新のものになっているか、ご確認下さい。

## フリーダイヤル

0120 - 155 - 096

月曜~金曜 9:00~12:00、13:00~18:00

(祝日および年末年始除く)



日本オラクル株式会社 無断転載を禁ず

この文書はあくまでも参考資料であり、掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

日本オラクル社は本書の内容についていかなる保証もいたしません。また、本書の内容に関連したいかなる損害についても責任を負いかねます。

Oracle、PeopleSoft、JD Edwards、及びSiebelは、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標の可能性があります。